



2016 年度

(平成 28 年度)

年 報

公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリス記念病院
訪問看護ステーション ヴォーリス
ホームヘルプステーション ヴォーリス
ヴォーリス居宅介護支援事業所

理事長挨拶

公益財団法人近江兄弟社 理事長
ヴォーリス記念病院 管理者
三ッ浪 健一

2016年度年報の発行に当たり、挨拶申し上げます。

2016年度には診療報酬改定がありました。これまでの診療報酬改定についてみると、1984年度以前は、改定時に「保険収載」「引上げ」「加算を創設」「新設」という文言が並んでいたように、診療報酬が改定によって段階的に体系化されていった時期でしたが、1985年度以降の改定では、診療報酬（本体）の評価体系に対して、「適正化」「合理化」「見直し」の政策に沿った調整が加えられるようになりました。1985～2016年度の診療報酬（全体）の改定が実施された年度の改定率の推移をみると、改定率を上昇させた時期（1985年度から1997年度）、改定率を低下させた時期（1998年度から2008年度）、ほぼ横ばいの時期（2010年度～2014年度）に大きく分類されます。その内訳となる薬価基準および診療報酬（本体）別の改定率をみると、薬価基準の改定率は、同期間、殆どの改定年度でマイナス改定となっているのに対し、診療報酬（本体）の改定率は、2002・04・06年度を除く全ての年度で、プラス改定となっています。

2016年度の全体の診療報酬改定率は、 -0.84% と、2008年度以来、8年ぶりのマイナス改定となりました。つまり、2016年度の診療報酬改定の結果、1年間の国民医療費（2015年度予算ベース：約43兆円）の約1%に相当する約0.43兆円分、2016年度及び2017年度に前年度比で増加する国民医療費の伸びを抑える効果が見込まれるものです。診療報酬の内訳を見ると、薬価及び材料価格の改定率は 1.22% 及び 0.11% のマイナスですが、診療報酬改定（本体）の改定率は 0.49% のプラスとなっています。

2006～2016年度の医療提供体制において対処すべきと掲げられた重要課題を整理すると、大きく6つの課題、即ち、「質の高い医療の提供（医療の重点的対応）」「質の高い医療の提供（医療費の効率化）」「救急、産科、小児、外科等の医療の再建」「病院勤務医の負担軽減」「患者にわかりやすくQOLを高める医療の実現」「地域包括ケアシステムの構築推進（在宅医療の充実）」に区分されます。これらの重要課題別に集計した診療報酬の改定項目数の推移で判断すると、2016年度においては「地域包括ケアシステムの構築推進（在宅医療の充実）」及び「質の高い医療の提供（医療費の効率化）」が改革の焦点と考えられます。

このような情勢の中で、2016年度に当院がどのような活動を行い、今後どのような病院にしていこうとしたのかについてまとめておくことは、今後の当院の発展のために大変有意義なことです。本年報をしっかりと分析していただいて、今後の発展へ向けた多くの提言がなされることを大いに期待しております。

院長挨拶

公益財団法人 近江兄弟社
ヴォーリス記念病院 院長 周防 正史

皆様におかれましては、益々ご発展のこととお慶び申し上げます。平素は当病院に格別のご支援、ご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

地域医療再生計画が出そろい、いよいよ各病院の生き残りをかけた時代の幕開けとなりました。近畿各府県ではそれぞれの府県ごとに、病院の統廃合が進みつつあるようです。病院だけではなく介護施設も充実し、看取りも積極的に受け入れる施設も出てきました。東近江医療圏でも、利用者さんや患者さんの争奪が現実のものとなってきています。

在宅療養支援、回復期リハビリと緩和ケアを軸として活動してまいりましたが、在宅療養支援病院として訪問診療を本格稼働させて3年が経過しました。地域包括ケアの意味は、多くの方が、住み慣れた土地で、住み慣れた環境で、長く暮らせることです。しかし、自宅で暮らすことが、寝たきりの患者さんにとって、また認知症の周辺症状が強く出た患者さんにとって必ずしも効率的ではありません。在宅療養は多くの人的サービスの投入が必須となります。現場の人的な投資は十分でなくても、患者さんに対して、丁寧な在宅医療・看護・介護の提供がどこまでできているのでしょうか。人工呼吸器をつけたままで在宅療養される患者さんや、難病で苦しんでおられる患者さんの在宅支援が軌道にのりました。地域に展開する現場のスタッフの能力を拡充し、さらなる地域包括ケアの展開が期待されています。

2016年度の活動をまとめましたので報告させていただきます。ご高覧いただければ、まことに幸いです。

末筆ですが皆様のご健勝ご発展をお祈り申し上げます。

基本理念

- I キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を実践する。
(病む人、障害を持つ人の満足する医療を実践する。)
- II 「医療は、サービス業である。」
(“患者サービス第一”を原則とし、親切で親身な医療サービスを実践する。)
- III 「心と体に対し、調和の取れた医療・看護を目指す。」
(病む人を診る。病む人に優しい医療を実践する。)

基本方針

- 1. ヴォーリズ記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重し、常に診療を拒まず、迅速に診断・治療を行う病院となる。
- 2. 一般急性期、高齢慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。
- 3. 地域住民の疾病予防・健康的生活のため、地域ニーズを反映した保健・医療・介護活動の拠点として開かれた病院となる。
- 4. 地域の保健医療機関及び介護施設との連携を深め、在宅医療、在宅介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する病院となる。
- 5. ホスピス病棟と在宅介護サービス部門との協働により、在宅の看取りを可能にする病院となる。
- 6. 職員を大切にし、お互いが希望と意欲を持って、働き甲斐のある病院となる。

私たちのちかい

- 1. 私たちは、患者さんのために最善をつくします。
- 2. 私たちは、患者さんの誰にも同じようにつかえます。
- 3. 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
- 4. 私たちは、患者さんのプライバシーをまもります。
- 5. 私たちは、知識・技術の向上につとめます。

目 次

理事長挨拶

病院長挨拶

病院基本理念 ・ 基本方針 ・ 私たちのちかい

1. 概要	ページ
沿革	1-4
病院の概要・病院の紹介・関連施設	5
施設基準	6
病院組織図	7
事業報告	8-12
2. 2016年度（平成28年）主な行事・出来事	13-16
3. 各部報告	
診 療 部 診療部 総括	17-21
医 局	22-24
診療支援室	25
診療技術部 診療技術部 総括	26-27
薬 局	28-29
放射線科	30
臨床検査科	31-33
栄 養 科	34-35
集団栄養指導	36

	リハビリテーション科	37-38
	メディカルフィットネスセンター ウォーリス	39-40
	ME サービス室	41-43
看護部	看護部 総括	44-45
	1 病棟	46-47
	2 病棟	48-50
	3 病棟	51-52
	緩和ケア病棟	53-54
	外来部門	55-56
	在宅療養支援課	57
事務部	事務部 総括	58
	医事課	59-61
	管理課	62-65
	地域医療課	66-68
	システム室	69
在宅サービス部門	在宅サービス部門 総括	70
	訪問看護ステーション ウォーリス	71-73
	ホームヘルプステーション ウォーリス	74-75
	ウォーリス 居宅介護支援事業所	76
	介護予防拠点事業活動報告	77
礼拝堂	礼拝堂 総括	78
診療情報管理室	診療情報管理室 総括	79-82
経営企画室	経営企画室 総括	83-85

4. 委員会報告

委員会組織図	86-87
業務連絡・業務改善委員会	88
給与・規約プロジェクト委員会	89
自衛消防隊	90
衛生委員会	91
栄養管理委員会	92
広報委員会	93
接遇委員会	94
臨床検査適正化委員会	95
医療安全管理委員会	96
医療安全管理 リスクマネジメント委員会	97
教育委員会	98
全人的ケア推進委員会	99-100
褥瘡対策委員会	101
ボランティア委員会	102
院内感染防止対策委員会	103
診療情報管理委員会	104-105
病院機能評価委員会	106
個人情報保護対策委員会	107
クリニカルパス委員会	108
ワークライフバランス委員会	109
IT情報管理委員会	110
認知症ケア推進委員会	111
図書委員会	112
病院 100 周年記念誌委員会	113

概要

1918 (大正7年)	4月 本館竣工
	5月 近江療養院開院式挙行(25)
	6月 第1号患者入院(10)
1919 (大正8年)	3月 入院患者15名となる。
1920 (大正9年)	4月から渡米していたヴォーリズ帰幡 土産として近江療養院へ、X線撮影機一式とピアノ一台を持ち帰った。
1922 (大正11年)	10月 入院患者30名となる。
1925 (大正14年)	8月 病棟9棟、総病床数50床となる。
1928 (昭和3年)	5月 調理室及び食堂新築着工
1929 (昭和4年)	4月 米国より蒸気消毒機、クレセント自動食器洗滌機到着
	6月 ボイラー据付。調理室及び食堂竣工。工費36,000円(8)
1931 (昭和6年)	2月 本館地階を研究室に改造
1932 (昭和7年)	6月 人工気胸術開始
	8月 横隔神経捻除術開 (阪大外科小沢凱夫教授来院)
1933 (昭和8年)	2月 島津製作所製レントゲン装置桂号設置される。(17)
	8月 看護師寄宿舍落成(8)
1934 (大正8年)	9月 浴室及び散髪室完成
1935 (昭和10年)	8月 新生館竣工
1937 (昭和12年)	4月 礼拝堂献堂式(2)
1941 (昭和16年)	7月 更生館竣工式(総病床数136床)
1945 (昭和20年)	7月 全院を陸軍に提供、全患者退院(1)
1946 (昭和21年)	7月 近江療養院を「近江サナトリウム」と改称
1947 (昭和22年)	4月 再開院
	記念館竣工
1950 (昭和25年)	8月 X線断層撮影装逋設置
	12月 胸部成形術第1例行われる。(京大結研究所 長石忠三教授執刀)(6)
1951 (昭和26年)	1月 肺切除術第1例行われる。(患者は現検査技師長 富永潤氏)(27)
	7月 看護婦寄宿舍増築
1955 (昭和30年)	12月 ハイドブリンク型全身麻酔器、アメリカより購入
1956 (昭和31年)	9月 平和館竣工
1961 (昭和36年)	9月 栄光館を取壊し、跡地に第二平和館着工
1962 (昭和37年)	4月 第二平和館竣工(24)
	8月 日本レクリエーション協会からPEC優良団体として表彰される。(1)
	10月 衛生委員会が組織される。(従業員数 が100名を越す)(3) 優良集団給食施設として表彰される。(31)

1963 (昭和38年)	7月 防火用貯水池完成(1) MP型(502)全自動ボイラー火入れ式(18) D K型懸垂式脱水機設置
1964 (昭和39年)	7月 ゼット式浄水装置設置、工費170万円(4)
1965 (昭和40年)	3月 自動現像装置設置(1) 9月 職員厚生ハウス竣工、応募作品中より“交友クラブ”と命名(16) 11月 新横型断層撮影装置設置(1)
1966 (昭和41年)	3月 新館起工式(7) 12月 新館にて外来診療開始(8)
1967 (昭和42年)	1月 新手術場開き(京大長石忠三教授御来院、御執力)(11) 新館竣工式(21) 4月 循環器科開設(1) 8月 看護婦寄宿舍増築竣工(7)
1971 (昭和46年)	5月 ヴォーリズ記念病院と改称
1972 (昭和47年)	2月 託児所開設(4) 6月 開心術第1例行われる。(東京慈恵医科大学新井達太教授御執刀)(20) 11月 X線TV装置設置
1974 (昭和49年)	10月 更生館及び新生館に、酸素及び吸引のパイピングが設置
1977 (昭和52年)	11月 更生館ニ階と記念館とを結ぶ渡り廊下完成 非常用自家発電装置設置
1979 (昭和54年)	8月 滋賀県緊急医療情報システムに参加(1) 12月 自動交換電話機導入
1980 (昭和55年)	6月 新ボイラ設置(炉筒煙管KSボイラ)(26)
1987 (昭和62年)	1月 消化器科設置(20) 3月 全身用X線CT導入 5月 心臓超音波診断装置導入
1991 (平成3年)	5月 本館外来診察開始(27) 6月 新基幹病棟(現本館)竣工(12) 10月 別館改修工事完成(1) 許可病床数187床(一般100床、結核87床〈実働41床〉)
1992 (平成4年)	12月 整形外科設置(2)
1993 (平成5年)	3月 新看護婦寄宿舍シオン寮竣工(31) 7月 夜間診療開始(毎週木曜日)(1) 12月 訪問看護ステーションはちまん開設(13)
1994 (平成6年)	2月 ターミナル委員設置(7) 4月 ヴォーリズ記念病院福堂診療所開設(13) 7月 近江八幡市在宅介護支援センターヴォーリズ開設(1) 旧看護婦寄宿舍解体撤去、跡地に職員駐車場設置 許可病床数184床(一般100床、結核84床)

1995 (平成7年)	5月	温冷配膳車導入。適時適温給食を開始(16)
	6月	第一回ヴォーリス記念病院ターミナルケア講演会開催(25)
	7月	介護車導入 第二平和館を重度障害者施設「中部通園くすのき」に土地建物無償貸与 「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」構想5ヵ年計画策定
1996 (平成8年)	5月	新厨房棟竣工(10)
	11月	更生館、新生館、希望館、旧本館、旧厨房・食堂棟の解体 撤去
1997 (平成9年)	3月	新託児所竣工(28)
	4月	リハビリテーション科設置(理学療法Ⅲ)(1) 訪問看護ステーションヴォーリス開設(16)
1998 (平成10年)	2月	政府管掌保険健康診断実施病院となる。
	3月	老人保健施設ヴォーリス老健センター開設(1) 病院裏山治山(落石防護)5ヵ年事業開始
	5月	ヘリカルCT導入(10)
	6月	消化器内視鏡センター設置
	8月	ホームヘルパーステーションヴォーリス開設(1)
1999 (平成11年)	1月	在宅保健福祉総合化モデル事業実施
2000 (平成12年)	4月	ヴォーリス居宅介護支援事業所開設(1) 訪問リハビリテーション開設(1) 療養病棟60床竣工開設(介護療養型医療施設44床、長期療養型病床群16床)(10) 結核病棟閉鎖(82年間に亘る) 許可病床数160床
	3月	平和館、第二平和館解体撤去
	7月	病院敷地を寄付し、ケアハウス信愛館建設開始(24)
2002 (平成14年)	3月	社会福祉法人近江兄弟社地塩会ケアハウス信愛館竣工(28)
	7月	10年間休んでいたチャペルの日曜礼拝再開(7)
	8月	訪問看護ステーションはちまん、ヘルパーステーションヴォーリス、ヴォーリス居宅介護支援事業所が新館地下に移転。研修室を新館地下に新設(1)
2003 (平成15年)	2月	患者憲章制定(1)
	3月	MRI検査開始(17)
	12月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し認定される。(15) ヴォーリスがんセミナー開始
2004 (平成16年)	6月	毎週金曜日整形外科夜間診療開始(11)
2005 (平成17年)	1月	すこやかフェスタ2005(30)
2006 (平成18年)	1月	緩和ケア病棟起工式(17)
	3月	亜急性期入院医療管理料算定開始(10床)(1)
	10月	地域連携室開設(1) 緩和ケア病棟開院・献堂式(2) メディカル・フィットネスセンター・ヴォーリス開設(平和堂近江八幡店内)

2007 (平成19年)	9月 病院機能評価受審(5) いきいきサロン ヴォーリズ開設 障害者病床認可
2008 (平成20年)	4月 介護療養病床16床を医療療養病床に変換。医療療養病床60床(1) 5月 平成20年度栄養関係功労者知事表彰受賞 栄養科(26) 9月 病院機能評価受審(15) 訪問看護ステーション(はちまん&ヴォーリズ)が合併し「訪問看護ステーションヴォーリズ」となる
2009 (平成21年)	1月 ウォーターハウス記念館竣工式(14) 3月 放射線科PACS稼働(2) 福堂診療所閉所(31) 4月 障害者病棟50床閉床(30) 5月 療養病床42床運用開始(1) 8月 回復期リハビリテーション病棟開設(1)
2010 (平成22年)	10月 病院機能評価付加機能(緩和ケア機能)受審、認定受ける(26)
2011 (平成23年)	2月 マルチスライスX線CT装置稼働 4月 D1co(肺拡散能力)検査が出来る総合肺機能測定装置採用 8月 医事コンピューターの変更、自動再来器廃止
2012 (平成24年)	2月 電子カルテ稼働(1) 4月 睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診断に役立つ簡易PSG検査導入 一般財団法人から公益財団法人へ名称変更
2013 (平成25年)	6月 新棟東館起工式(11) 11月 第1回健康フェスティバル(10) 12月 病院機能評価認定書受理(15) クラーク導入 メンタルヘルス、ワークライフバランス取組 システム室開設
2014 (平成26年)	1月 退職金積立制度確定拠出年金制度開始 3月 新棟東館竣工式(29) 4月 リハビリテーションセンター新棟東館3階に新設(1) 5月 DPCシステム導入(26) 7月 びわこメディカルネット運用開始(1) 10月 亜急性期病床廃止、地域包括ケア病床新設(1) 11月 メディカル・フィットネスセンター・ヴォーリズ平和堂近江八幡店内閉鎖(ヴォーリズ老健センター内へ移設)
2015 (平成27年)	10月 第2回健康フェスティバル(25) 障害児・者のリハビリテーション開始
2016 (平成28年)	1月 療養病棟入院基本料1にランクアップ(1) 10月 ホスピス10周年記念講演会(23) 11月 看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」起工式(19)
2017 (平成29年)	3月 回復期リハビリテーション病棟入院料1にランクアップ(1)

■ 病院の概要

所在地 : 滋賀県近江八幡市北之庄町 492
開設者 : 公益財団法人近江兄弟社
開設年月日 : 1918 年 5 月 25 日
病院長 : 周防 正史
病床数 : 168 床
診療科目 : 内科、消化器科、循環器科、脳神経外科、神経内科、糖尿病、外科、
呼吸器外科、整形外科、麻酔科、リハビリテーション科、
緩和ケア科、物忘れ外来、乳腺外来、総合診療科、肛門科、
医師数 : (常勤) 8 人 (非常勤) 44 人
一日平均外来患者数 : 95 人
一日平均入院患者数 : 155 人

■ 病院の紹介

公益財団法人近江兄弟社は、創立者 W. M. ヴォーリズ(一柳米来留/ ひとつやなぎ めれる)のキリスト教の「隣人愛」と「奉仕」、「平和」の精神を基本理念として、近江八幡市北之庄の地に「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」を運営しています。ヴォーリズ記念病院を核にして一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟(県内唯一の独立型ホスピス)、医療療養型病床、老健センター、ケアハウス信愛館、その他各種の在宅介護サービス事業が有機的に連携し、高齢者へのシームレスなケアを総合的に提供しています。

2016 年 3 月、東近江保健医療圏で唯一の回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を取得しました。また、地域医療を支えるため、医師、看護師、PT・OT・STが訪問診療を行っています。在宅療養支援病院として、地域の診療所の先生方とも連携し、地域包括ケアシステムの中心を担える病院を目指しています。

■ 関連施設

公益財団法人近江兄弟社 (ヴォーリズ記念館)
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ老健センター
社会福祉法人近江兄弟社地塩会 ケアハウス信愛館
中北部地域包括支援センター (近江八幡市委託事業)

■ 施設基準

厚生労働省告示に基づく『厚生労働大臣の定める掲示事項』は、下記の通りです。

入院基本料に関する事項

- 1、当院は、一般病棟入院基本料 10：1 を届け出ております。
- 2、当院は、療養病棟入院基本料 1（8 割以上）を届け出ております。
- 3、当院は、地域包括ケア入院医療管理料 1 を届け出ております。
- 4、当院は、緩和ケア病棟入院料を届け出ております。
- 5、当院は、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を届け出ております。

近畿厚生局長への届出に関する事項

- 1、当院では、次の施設基準に適合している旨の届出を行っています。

<基本診療料>

一般病棟入院基本料(10：1)
療養病棟入院基本料 1(8 割以上)
回復期リハビリテーション病棟入院料 1
地域包括ケア入院医療管理料 1
緩和ケア病棟入院料
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 2(40：1)
急性期看護補助体制加算(25：1)
（看護補助者 5 割以上）
重症者等療養環境特別加算(2)
療養病棟療養環境加算 1
栄養サポートチーム加算
後発品医薬品使用体制加算 2
感染防止対策加算 2
病棟薬剤業務実施加算 1
データ提出加算 1
退院支援加算 1
認知症ケア加算(2)

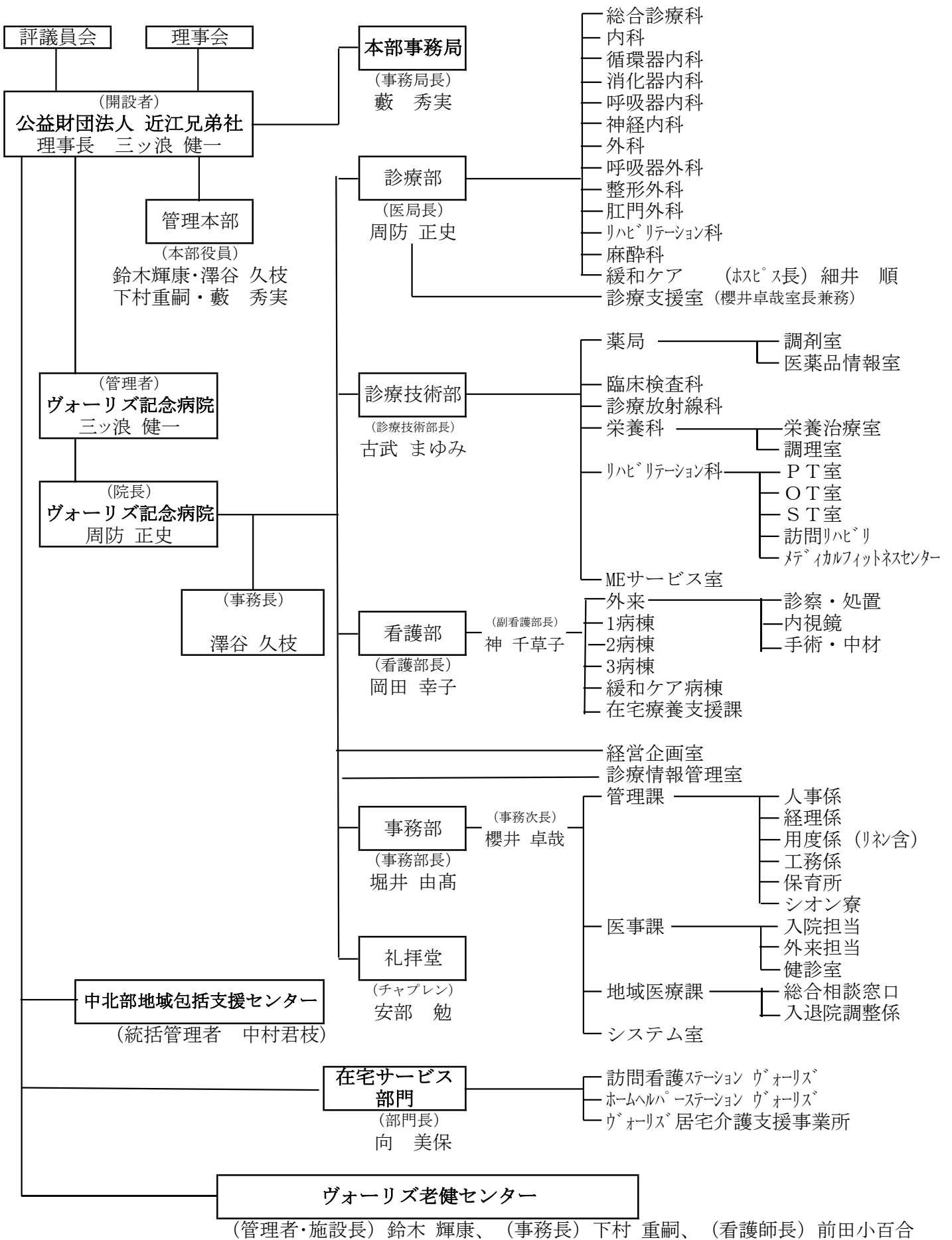
<特掲診療料>

がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料 1.2
がん治療連携指導料
薬剤管理指導料
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
医療機器安全管理料 1
在宅療養支援病院「第 14 の 2」の 1 の(1)
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
在宅がん医療総合診療料
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問
看護・指導料の注 2
検体検査管理加算(Ⅰ)
CT 撮影及び MRI 撮影
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算届出有
運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算届出有
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算届出有
がん患者リハビリテーション料
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料(Ⅰ)

(2017. 3. 31)

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院（及び関連事業体）

2016（平成28）年度 組織図（4月1日）



公益財団法人近江兄弟社　　ヴォーリズ記念病院
平成 28 年度　事業報告

28 年度のトピックスは、

①平成 28 年 1 月より療養病棟入院基本料 2 から 1 へのランクアップに続き、6 ヶ月の実績を整え、11 月に在宅復帰機能強化加算を取得した。このことは、急性期病院にも在宅復帰率が科せられており、この加算を算定している医療療養病棟への直接入院も在宅復帰の対象となることにより、紹介先として選択肢が広がることになる。一日 10 点、年間 200 万円の収入増に繋がっている。

②今年度の目標としていた回復期リハビリテーション病棟入院料 1 へのランクアップについては、重症率、在宅復帰率、改善率のコントロールに併せて、人員配置では、専従の社会福祉士 1 名、看護体制 13 対 1 夜勤看護師 2 名体制を整え、平成 29 年 2 月申請、3 月より算定開始となった。このことで、早期に急性期病院からの患者を受け入れることができ、質の高い治療・ケアの提供が可能となった。経営面では、一人 154 点、年間 2,300 万円の増収が見込める。

③メディカルフィットネスセンターは、5 月より市の受託の総合事業 C(パワーアップ)を開始した。3 ヶ月クールの実績により、終了後の利用者は会員制に移行されるなど、一定の評価を頂いている。回復した機能を維持するために、訪問 C のサービスを拡大要請があり、29 年 4 月より開始となっている。

④組織では、退院支援を強化するために、看護部に在宅療養支援課を位置づけた。入院時より、退院に向けての計画を進め、生活の場へスムーズに復帰できる体制を構築できた年度であった。

⑤福利厚生では、10 月よりユニフォームを全職種リニューアルし、レンタル制に切り替えを行った。

3 年ぶりに、厚生旅行を再開。一部自己負担として実施した。

○診療報酬改定の影響度

当院に影響があった加算項目として、看護必要度、退院支援 1、データ提出、退院前訪問指導料、外来・入院栄養指導、介護支援連携指導料、認知症ケア、薬剤総合評価調整、退院後訪問指導料。減点項目として、緩和ケア病棟入院基本料、MRI 撮影、入院時食事療養(経管栄養)が挙げられる。1ヶ月の実績で、+75 万円となる。

経営状況として、

前年対比では、医業収入は、+60,007 千円 (+2.8%)、医業費用は、+64,740 千円 (+3.0%)、医業収支差は、△4,733 千円、医業外収支差は、△29,776 千円となった。結果、増収減益、経常収支差額は、△32,379 千円の赤字となった。

分析については下記に述べる。

①入院は、一般病棟 37 床、稼働率 85%、単価 30,415 円、地域包括ケア病床 13 床、稼働率 101.5%、単価 31,594 円。在院日数安定と看護必要度、稼働率、単価アップに注力しながら、日々の行動目標を設定しながら進めたが、重症度の高い方の退院支援に苦慮するケースが増え、在院日数を引っ張ってしまう結果となっている。

これらの教訓を活かし、新年度、東館のベッド利用率の低い部屋のことも視野に入れ、地域包括ケア病床を 17 床に増床するシミュレートに入った。

②回復期リハビリテーション病棟 42 床は、稼働率 97.5%(前年度 98.5%)であったが、平成 29 年 3 月より入院基本料 1 の取得により、1ヶ月の影響ではあるが、単価が 36,631 円(前年 35,738 円)とアップし、収入増に繋がった。加算要件は全てクリアしている。

紹介は、近江八幡立総合医療センターが 86%(前年度 82%)を占めている。

③療養病棟 60 床では、平成 28 年 1 月には要件を整え療養病棟入院基本料 2 から 1 へのランクアップにより、稼働率 95.8%(前年度 97.8%)。単価は医療区分 2,3 の割合 88.2%を維持していることにより 19,095 円(前年 16,147 円)と増収となった。

傍ら医療度がアップした分、医療行為の増大・看取りの件数増であるため、業務改善、環境整備、人員配置の適正化を検討し、人員については夜勤体制を、看護師 2 名ワーカー 1 名の計 3 人から、ワーカーを 1 名加え、4 名体制としている。

④ホスピスでは、医師 2 名体制に加え、非常勤医師 1 名(週 4 日)を迎え、人材育成に力を入れている。週 1 回近江八幡市立総合医療センターへの緩和ケア医診療も継続している。

稼働率は、71.6%(前年 81.9%)と落ち込んだ結果となった。単価は在院日数が 21.7 日(前年 26.3 日)と短縮になっているので、51,382 円(前年 47,984 円)とアップしている。

月平均 14 名の予算計上より大きく下回っている結果となった。紹介もとを近江八幡市立総合医療センターのみでなく、東近江総合医療センター、成人病センター等に訪問し紹介を促したが、在宅復帰率 26%、在院日数の短縮により紹介待機が追いつかない状況が続いたことが原因と考えられる。

⑤外来は、月平均 2,244 人(前年対比▲95 人)、一日平均患者数 91.6 人(前年対比▲3.4 人)、外来収入は 272,400 千円(前年対比▲8,251 千円)、予算対比+23,400 千円であった。専門外来非常勤医師の集客性が期待できない状況が続いており、新規患者の獲得が前年に比べ△410 人(年間 1,930 人)であった。人件費に対する費用対効果は薄い。常勤医の不足状態で、特に消化器内科ではポリープ切除が出来ない状況である。内視鏡検査は週 5 日体制で継続ができています。現在受診されている患者を大切にしつつ、効率のよい外来機能へ再構築をする。

在宅療養支援病院の役割を果たすために、訪問診療を継続している。件数は 474 件、月平均 40 件であった。地域の開業医の先生方との連携を強化し、不在時のサポート、懇談会の開催を継続できた。

⑥健診は、55,030 千円(前年対比△1,483 千円)の実績となった。但し、職員健診 4,706 千円分は、福利厚生費として戻している。

⑦リハビリテーション科の実績は、回復期リハアウトカム実績指数・地域包括ケア病床の単位数はクリアできた。収入 313,426 千円、予算対比 97.2%の結果である。要因として、P T 1 名病欠、P T 育児休業、3 月末退職者 2 名の有給消化、引き継ぎ等が考えられる。

⑧就業環境面においては、ワークライフバランスプロジェクト 4 年目を迎え、継続的に課題を抽出し活動をしている。今年度は、コンプライアンス研修会の開催、パワハラ対策委員会を設置し、相談窓口等の改善を図った。

⑨人件費は、全体で1,498,387千円（前年対比+47,287千円・+3.3%）、収入に対する人件費率は69.4%となり、同比率は前年対比2.1%悪化した。賞与は前年対比+4,624千円、退職金は、前年対比▲24,375千円となった。また、非常勤医師給与も135,511千円（前年対比+3,942千円）と依然高い。人件費増大は、今年度業績の大きな足枷となり、各部署の適正人員や時間外手当の精査・検証、外来診療の効率性・費用対効果の検証が次年度の最優先経営課題である。

⑩経費関係では、期中下期から導入した職員ユニフォームのレンタル化、院内感染対策や患者療養環境改善・リスク低減の観点から購入した消耗品・消耗器具備品費が経費増となった。一方、減価償却費は121,703千円（前年対比▲13,753千円）となり、今後も漸減していく見込みである。

また、年々負担が重くなりつつある電気代については、新電力会社競合要因もあり、2月に関西電力との間で従来比▲11%の契約が成立、次年度は4百万円強のコスト削減に寄与する見込みである。

⑪人財の充足においては、医師の常勤確保が喫緊の課題であり、当直非常勤医師の継続雇用をおこなっている。6月に常勤医師が採用となったが、継続が難しく退職となった。回復期リハの先生が専門医取得のために3月末で退職となり、厳しい状況の中、新年度4月より回復期リハ1名の常勤医師、6月より脳神経外科医師1名の常勤医師が確保できた。看護師・介護士においては、リクルート活動3年目を迎え、他府県にも積極的に広げ、修学生制度の利用率を上げながら人材確保に繋げている。病院見学による求人も併せて活用している。毎年平均6名の看護師修学生を安定供給ができています。

○平成29年度に向けての取り組み

上記に述べたように、平成28年度医業収入は、予算対比+47,793千円、医業支出は+114,664千円と大きな解離の課題を受けて、特に人件費問題について、時間外、要員の適正化を中心に、レビューミーティングを開催。各部署からの行動指針を共有した。中でも収支に解離のあったホスピスと外来については、部門長より出されたアクションプランに則り、施策を開始しているところである。今後、4半期毎に、レビューを行い特に支出における予算執行に注力する。

以上

ヴォーリス記念病院 貸借対照表

平成29年3月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
〔流動資産〕	691,933,430	〔流動負債〕	366,472,459
現金・預金	159,784,403	買掛金	67,475,136
医業未収金	306,795,573	未払金	23,217,976
未収金	14,121,446	預り金	11,082,347
棚卸資産	11,198,477	仮受金	1,000
前払費用	1,252,904	短期借入金	165,600,000
役員従業員短期貸付金	35,300,000	一年以内返済長期借入金	51,096,000
他会計短期貸付金	0	賞与引当金	48,000,000
立替金	165,654,427		
仮払金	0		
貸倒引当金	△ 2,173,800		
		〔固定負債〕	824,615,995
〔固定資産〕	1,376,700,827	長期借入金	485,628,000
<有形固定資産>	1,373,383,438	他会計長期借入金	328,695,775
建物	1,240,313,036	長期未払金	10,292,220
構築物	33,486,999	退職給付引当金	0
医療用器械備品	50,433		
その他の器械備品	40,968,616	負債の部合計	1,191,088,454
車輜及び船舶	12,943		
土地	33,522,364	資本の部	
リース資産	25,029,047	国庫補助金等	296,940,000
		出資金	93,431,624
<無形固定資産>	3,317,389	剰余金	
電話加入権	431,732	当期末処分剰余金	518,777,148
ソフトウェア	2,885,657	(うち当期剰余金)	(△32,380,744)
〔その他の資産〕	31,602,969		
出資金	585,000	資本の部合計	909,148,772
敷金	794,000		
長期前払費用	24,310		
保険積立金	30,199,659		
資産の部合計	2,100,237,226	負債・資本合計	2,100,237,226

2016 年度 主な行事・出来事

2016 年度（平成 28 年度）主な行事 出来事

4 月

- 1 日 入社式 新入職員 27 名、前年途中入社 19 名
“患者支援センター”新設（在宅療養支援課、地域医療課）
- 2 日 自己啓発セミナー（新入職者対象、ウォーターハウス）
遺産を守るお披露目会（五葉館）
- 4 日 新入職員オリエンテーション
- 5, 6 日 看護部職員研修（新入職者対象）
- 19 日 H28 年度 各部門、各部署の事業計画発表会
- 20 日 「愛の献血」（老健センター 1F 研修室）

5 月

- 7 日 W. M. ヴォーリズ召天記念礼拝（恒春園）
第 87 回近江兄弟社 恒春園記念式（恒春園・ヴォーリズ平和礼拝堂）
- 12 日 「看護の日」イベント
- 21 日 病院 春季追悼会（ケアハウス信愛館）
- 25 日 第 98 回開院記念式・永年勤続・ボランティア表彰（礼拝堂）
新入職員歓迎会（グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 31 日 “生と死を考える会 淡海” 総会

6 月

- 11 日 ホスピス偲ぶ会（グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 15, 22 日 院内感染防止対策委員会講習会
「標準感染予防策について」
- 18 日 「H28 年度 ボランティアの集い・オリエンテーション」
- 20, 29 日 リスクマネージメント部会研修会「RCA 分析に関して」
①年間集計発表 ②グループワーク ③アンケートの作成
- 24 日 「第 42 回 里モニター会オリエンテーション」

7月

- 4, 15日 リスクマネジメント部会研修会「RCA分析に関して」
①年間集計発表 ②グループワーク ③アンケートの作成
- 20日 里のクリーン大作戦
- 30日 ヴォーリズ記念病院見学会

9月

- 1～14日 院内全職員対象「ストレスチェック」実施
- 6, 9日 ハラスメント研修会（管理職対象）
- 8, 9, 15, 16日 教育委員会主催『院内ウォーク』研修会
（今年度4月新規採用者と前年度途中入職者の常勤勤務者対象）
- 12, 13, 14日 ハラスメント研修会（一般職員対象）
- 22日 滋賀県病院協会ソフトボール大会（マキノ総合運動公園）
- 26日 職員旅行〈日帰り〉『シルクデュソレイユ・トーテム』1班
- 28日 地域開業医との医療懇談会（研修室①）

10月

- 1日 職員ユニフォーム新調
- 7, 12, 13, 14日 個人情報保護対策委員会主催研修会
DVD鑑賞「ネット社会の脅威 あなたの会社の対策は？」
- 11日 職員旅行〈日帰り〉『シルクデュソレイユ・トーテム』2班
- 13日 第23回初期消火競技会（近江八幡消防署）
〈消火器操法の部〉第6位入賞
- 15日 病院 秋季追悼会（ケアハウス信愛館）
- 18～19日・25～26日
職員旅行〈一泊〉『京都三大和牛食べ比べプラン』1班・2班
- 23日 ホスピス開設10周年記念講演会（G-NETしが）
「ホスピス緩和ケアの原点～支えること、寄りそうこと」
演者：淀川キリスト教病院理事長 柏木 哲夫先生
- 27日 保健所による立ち入り調査
- 31日 認知症ケア推進委員会研修会
「認知症について」
講師：内科医師 西教美千子

11月

- 2日 「愛の献血」 (老健センター1F研修室)
- 3日 遺産を守る市民の会ホームパーティー (五葉館前)
- 8, 21, 22日 コンプライアンス研修会 講師: 藪本 恭明氏(弁護士)
- 12日 ホスピス偲ぶ会 (グリーンホテルYes 近江八幡)
- 15~16日 職員旅行<一泊>『京都三大和牛食べ比べプラン』3班
- 19日 看護小規模多機能型居宅介護“友愛の家 ヴォーリス”起工式
- 22日 「第43回 里モニター会」
- 23日 管理職研修会
テーマ: 医療介護組織の魅力発信と連携マネジメント
- 27日 近江兄弟社 社員会 懇親バス旅行
「関西学院キャンパス&インスタントラーメン発明記念館、
鉄道博物館(京都) ツアー」

12月

- 10日 病院クリスマス会
- 13日 認知症ケア推進委員会研修会
「“ひとの気持ち” ~思いを理解してかかわる~」
講師: 村上温子氏(老健センター)
- 22日 近江兄弟社 社員会 クリスマス会(ヴォーリス平和礼拝堂)
- 26日 衛生委員会研修(管理職対象)
「H28年度ストレスチェックによる組織分析結果報告・対策委員会」
講師: SOMPO リスクアマネジメント(株) 岡本氏
- 28日 仕事納め 院内巡視

平成29年1月

- 24日 教育委員会主催 インスタントシニア体験
講師: 滋賀県社会福祉協議会 平 芳典 氏
- 27日 近江兄弟社 社員会 ボウリング大会(近江八幡エースレーン)
- 28日 2016年度第1回 ヴォーリスがんセミナー (ケアハウス信愛館)
「抗がん剤の上手な使い方と限界」
講師: 三菱京都病院 緩和ケア内科 部長 吉岡 亮 氏

2月

- 1日 近江兄弟社第112回 創立記念の夕べ (グリーンホテル Yes 近江八幡)
- 2日 近江兄弟社第112回 創立年記念式 (ヴォーリズ平和礼拝堂)
- 14, 15日 里教育委員会主催研修会
「我がまちがめざす地域包括ケア」～私たちが今為すべきこと～
講師：センター長 森村 敬子 氏
近江八幡市東部地域包括支援センター (NPO 法人ユナイテッド・ケア)
- 14, 21日, 3/14日 院内感染防止対策・医薬品安全管理委員会主催研修会
「手洗いのタイミング」講師：医師 奥野 貴史氏
「点滴袋穴あき事件と薬剤別廃棄方法」講師：薬剤師 古武 まゆみ氏
- 18日 2016年度第2回 ヴォーリズがんセミナー (ケアハウス信愛館)
「地域に、あなたに寄り添う薬局を目指して」
講師：東近江市 丸山薬局 薬剤師 大石 和美 氏
- 24日 職員会主催：職員親睦会 (翠翔 近江八幡店)

3月

- 5日 “生と死を考える会 淡海” 公開講演会 (ケアハウス信愛館)
「今、この身で生きる」
講師：大河内 大博 氏
浄土宗願生寺副住職・上智大学グリーンケア研究所主任研究員
- 14日 第2回消防・避難訓練実施
- 18日 平成28年度 里モニター会慰労会 (ケアハウス 信愛館)
2016年度第3回 ヴォーリズがんセミナー (ケアハウス 信愛館)
「悩みって深いですね、わかりますよ」
講師：大津市民病院 臨床心理士 笹田 侑子 氏
- 21日 平成29年度 病院・各部門事業計画発表会
- 21, 22日 接遇委員会主催「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」合同接遇研修
「見直そう基本の接遇！里内の意識調査を通して」
～接遇の事を正しく知ってほしい、社会人としての接遇～
講師：津島 裕子 氏 (産業カウンセラー 交流分析士1級)

各部報告

診療部

◆消化器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0名

非常勤医師 : 5名

【診療体制】

外来診療日 : 水曜日・金曜日・土曜日（第1・3・5週目）

入院 : 約 10 床

【診療内容】

常勤医師不在ですが、腹腔内臓器全般の診療、消化性潰瘍のヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法、炎症性腸疾患の治療、各種消化管疾患の治療、慢性肝炎のインターフェロン療法をおこなっています

◆循環器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

非常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 20 床

【診療内容】

急性期から慢性期の患者さんに対応しております。心臓超音波検査・頸部動脈超音波（年間約 1000 例）やトレッドミル検査（年間約 100 例）他生理検査を行い、各種心疾患の早期診断、治療を行っております。

◆糖尿病内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0名

非常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

糖尿病の治療、教育入院、外来における糖尿病教室行っております。NSTとも協力して、栄養評価、指導をよりきめ細かいものに行きます。

◆呼吸器科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

非常勤医師 : 4名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日（第2・4週目）

入院 : 約 10 床

【診療内容】

市中肺炎から COPD 等の慢性肺疾患、結核や非定型抗酸菌症の診断や治療（現在結核入院は受け入れておりません）、肺癌の診断、気管支鏡検査、肺癌の治療（主に抗癌剤治療）など幅広く対応しております。アスベスト疾患の2次検診についても対応しています。

◆一般消化器外科・肛門科・麻酔科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

非常勤医師 : 1名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・木曜日・土曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

急性期疾患（急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎など）から胃癌、大腸癌、胆嚢癌、膵癌などの消化器癌の診断、治療を行っています。肛門科は内痔核、裂肛、痔ろう、直腸脱、直腸粘膜脱などを幅広く対応しています。内痔核に対する四段階注射法（ジオン療法）を行っております。

◆整形外科

【スタッフ】

非常勤医師 : 6名

【診療体制】

外来診療日 : 木曜日・土曜日の午前診

入院 : 約 10 床（外科で対応）

【診療内容】

主に慢性期の患者さんに対応。診断（オープンタイプのMRIなど）及びリハビリテーションに力をいれております。（外科での入院になります）

◆リハビリテーション科

【スタッフ】

脳血管リハビリ専任医師 : 1名
運動器リハビリ専任医師 : 1名
呼吸器リハビリ専任医師 : 1名

【診療体制】

入院 : 約 46 床

【診療内容】

脳梗塞・脳出血後遺症、整形疾患、呼吸器疾患、パーキンソン病・多発脳梗塞・認知症の方に、理学療法、作業療法、言語療法を行っております。

地域包括ケア病床・回復期リハビリ病棟で入院リハビリを行っております。対象は脳血管疾患の急性期を過ぎた患者さん、整形外科や外科の術後などでリハビリが必要な患者さんです。地域連携パスにも参加しています。

◆神経内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日
入院 : 約 10 床

【診療内容】

脳梗塞、パーキンソン病、その他各種神経疾患の診断、治療そしてリハビリテーションを行っております。

◆緩和ケア部門

【スタッフ】

常勤医師 : 2名

非常勤医師 : 1名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・金曜日

入院 : 16床 (ホスピス病棟)

【診療内容】

ホスピス病棟 (希望館) を開設して10年になりました。癌終末期の患者さんに緩和ケアを行っております。今後、湖東地域における緩和ケアの中心を担うべく、心の通ったケアを行っております。在宅ケアにも力を入れております。

◆認知症外来

【スタッフ】

非常勤医師 : 1名 (兼任)

【診療体制】

外来診療日 : 水曜日午後

【診療内容】

アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の治療・リハビリ・相談を行っております。

医局

【目標】

1. 地域医療・福祉への積極的な関わりを推進する。地域医療構想や地域連携の中で、東近江医療圏における当院の位置づけと役割(後方支援病院としての役割)分担を明確にし「病一診」「病一病」連携を更に推進する。
2. 緩和ケア(在宅・ホスピス・デイ)への取り組み。より緩和ケアが認定される様に周辺の医療機関に働きかける。
3. 回復期リハビリテーション病棟の稼働安定化を図る。
4. インフォームド・コンセントの徹底とチーム医療の確立
5. 急性期疾患の患者の確保
 - ・迅速な診断と的確な治療
 - ・ベッドコントロールの適正化・迅速化
6. 外来部門の効率化・専門外来の充実と、健診部門の充実。在宅診療課の創設
7. 電子カルテの活用(効率化、地域ネットワーク)、クラークとの連携強化

【教育】

個々の医師により研修や専門医試験に向けた研鑽を重ねる。

【今後の課題】

1. 医師事務クラークと協力し、外来事務補助をより効率的に行うことを目的とする。
2. 地域ネットワークへ参加し、びわ湖メディカルネットや淡海あさがおネットを更に活用する。
3. 訪問診療を効率的に運用する。
4. 常勤医の安定獲得に向け、活動を行う。

【平成 28 年度振り返り】

平成 27 年 2 月に在宅療養支援病院を届出し、訪問診療や緊急入院受入の本格的な取り組みを開始した。地域包括ケア病床を 13 床で運用開始し、稼働率確保に貢献した。

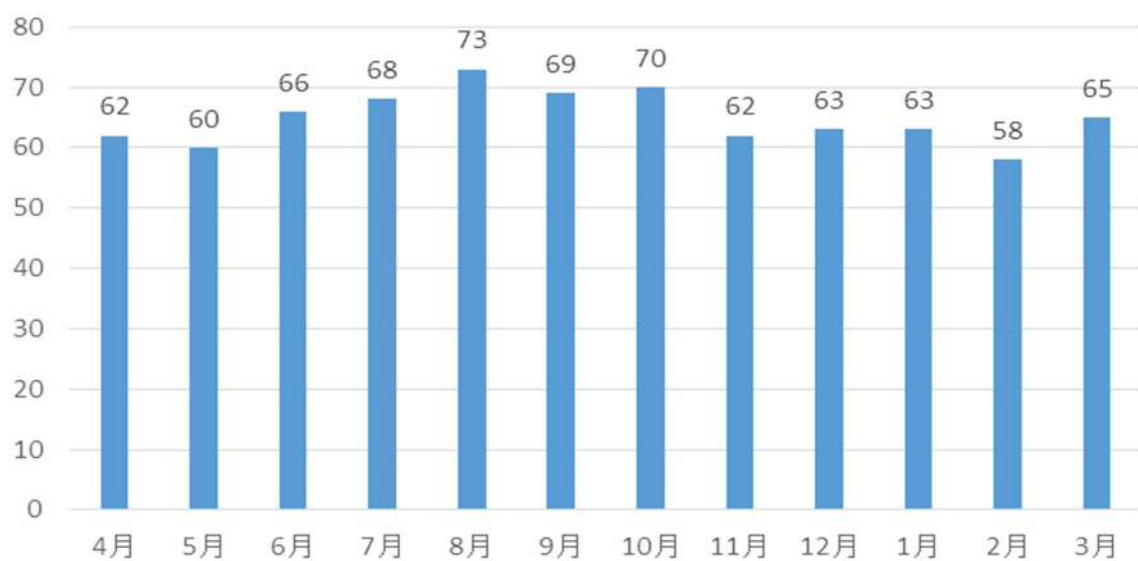
外来患者数は減少傾向で、予算上の目標達成はできなかった。

今後は在宅療養支援病院としての役割を強化し、他医療機関からの各種患者を速やかに受入、できるだけ早期に在宅復帰させて、外来や訪問診療患者数を増加させることが望まれる。

平成28年度1日平均外来受診人数



紹介患者数



<平成 28 年度 手術件数>

手術名	件数	手術名	件数
痔核硬化療法(四段階注射法)	13	CVポート留置術	3
痔核根治術	8	肛門ポリープ切除術	4
胃EMR	4	胸膜癒着術	6
腹腔鏡下胆嚢摘出術	2	胆嚢外嚢造設術	1
外単径ヘルニア根治術 (ダイレクトクーゲルパッチ法)	4	内単径ヘルニア根治術 (ダイレクトクーゲルパッチ法)	4
十二指腸潰瘍穿孔チューブ留置術	1	痔瘻根治術	4
腹腔鏡下虫垂切除術	1	会陰部膿瘍切除術	1
開腹虫垂切除術	1	肛門括約筋側方切開術	2
直腸切除術(低位前方)	1	気管切開術	2
肛門形成術	2	気管支異物除去術	2
皮下腫瘍切除術	2	気管切開術	3
皮膚切開術	3	顎関節脱臼非観血的整復術	1
創傷処理(筋肉、臓器に達しない)	14	開放創閉鎖術	1
陥入爪手術(簡単)	1		
左乳房切除術(リンパ節郭清伴う)	2	合 計	93

<平成 28 年度 検査件数>

	GFS	BS	CF	USTG	マンマ	甲状腺		GFS	BS	CF	USTG	マンマ	甲状腺
4月	39	1	9	55	11	3	10月	102	1	9	117	20	7
5月	80	3	14	98	8	4	11月	96	0	18	84	14	3
6月	96	3	10	125	14	7	12月	84	2	16	74	13	3
7月	99	6	11	119	17	4	1月	77	2	8	48	7	1
8月	110	2	13	133	21	1	2月	93	7	8	58	10	3
9月	103	2	11	119	12	4	3月	70	1	8	54	9	4
							合計	1049	30	135	1084	156	44

診療支援室

【スタッフ】

常勤職員 7名、 非常勤職員 1名

【目標】

- ・ 医師の負担軽減に対し、積極的に提言・提案ができるように努める。
- ・ 電子カルテの評価・分析に基づき、効率的な運用改善に努め、更新に向けて情報収集・役割分担に注力する。
- ・ 部署内の体制の整備・教育体制を整理し、チーム医療の推進を図る。

【活動報告】

- ・ 外来入力補助・文書作成補助等のルーチン業務に対しての医師の負担軽減に努めた。
- ・ 人員の充足により業務の拡充を図る。(病棟業務等)
- ・ 訪問診療担当者配置

【実績】

- ・ 電子カルテの代行入力をはじめ、非常勤医師へのオリエンテーション、医師当直室・医局内の整理整頓、レセ病名の入力・訂正の代行入力に、主治医意見書・医師意見書の代行入力、各種書類の下書き・清書書き、病棟の褥瘡の集計作業をはじめ、処方・注射切れの確認作業と医師への連絡業務等、医師の事務作業補助を基本に負担軽減に努めた。
- ・ 今年度より病棟業務への拡充を目指したが調整がうまくいかず、思うような業務の広がりができなかった。
- ・ 訪問診療担当者配置により、訪問先の日程調整、連絡等を支援室にて把握し円滑な業務に努めた。

【教育】

- ・ 滋賀県女性医師交流会参加「ドクターズクラークの活用」について
- ・ 平 28 年度第 3 回医事研究会参加「医師事務補助者の現状と今後の活用」について
- ・ 平成 28 年度第 36 回滋賀県病院大会参加

【今後の課題】

- ・ 定期的な勉強会の実施、医師との教育方針について協議を行い、業務に必要な知識向上とレベルアップに努める。
- ・ 診療支援室内の整備、教育体制の見直しを行い、リーダー格としての人材の養成と育成に努める。
- ・ スペシャリストの養成
- ・ 病棟業務について看護クラークとの調整および業務内容の再検討
- ・ 今年度実施できなかった積極的な研修会への参加、院内勉強会の実施をする。

診療技術部

【H28 年度活動計画及び実績】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて、医療・介護の提供を実践する。

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を確認し、当院の強みを強化する。
地域包括ケアシステムのなかで、他院から紹介等の患者が早期に地域に復帰できるように診療技術部各科が協力し、院内の他部門、地域の医療機関および事業所、施設、地域包括支援センターと連携して支援する。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) 地域包括ケアシステムの中で各職種の役割を考え、実行する。
 - 2) 地域ニーズに合わせ、他職種によるチームで診療をサポートする。
NST、ICT、褥瘡、緩和ケアチーム、糖尿病教室、院内感染合同カンファレンス参加など。
 - 3) 地域 ICT（あさがおネット、びわこメディカルネット）の運用、三方よし等の地域会議に参加し、近隣の医療機関と連携し、地域医療に貢献する。
 - 4) 病院機能評価に必要なデータ集積、マニュアル改訂を継続し、H30 年度の更新に備える。
3. 各科 各人が目標数字を定め、到達できるよう毎月努力する。
 - 1) 目標数字を達成する。
昨年より収益増（件数増）を目指す。収益増（件数増）に結びつくように他部署に働きかける。H28 年 4 月からの診療報酬改訂による影響を検討し、取り組んでいく。
回復期リハビリテーション病棟入院料 I を取得する。
 - 2) 経費を削減する。消費税アップの影響が少なくするように取り組む。
 - 3) 人材を確保・育成し、各職員が人事評価制度における自己目標の達成をめざし、レベルアップを図る。
診療技術部で発表の機会をもつ。
 - 4) 職員のコンピテンシー、規律遵守を促す。（報告・連絡・サービス及び時間厳守・整理整頓）
4. コンプライアンスを徹底し、公正な企業風土の確立を目指す。
診療報酬上の施設基準を理解し、継続する。
5. 医療機器・医薬品の安全使用管理・情報提供を徹底し、医療事故を防止する。
 - 1) 医薬品・医療機器の講習会、点検を行い、関係部署に発信していく。
 - 2) 個人情報漏洩防止に考慮し、医療安全への意識を高めインシデント・事故防止に努める。

6. 停電・天災等の災害時、新型インフルエンザ発生等に対する各科のマニュアルを整備し、危機管理体制を構築する。
7. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。
介護予防教室、病院・財団からの出前講座など地域の事業に各職種の職能を生かして関わる。
ヴォーリズすこやかフェスタ、がんセミナーに職能を活かし積極的に関わる。
病院の広報誌、ホームページで各職種の働きを地域にアピールする。
8. 近江兄弟社グループ他事業体職員と共に、創立者ヴォーリズへの認識を高める。

【H29 年度の課題】

診療技術部以外の部門、部署と連携を取り、各科の職能を発揮して協力して業務にあたり、患者の治療・診療に貢献する。各科の技能、知識を更に向上させて医療の質の向上を目指す。

H30 年 4 月の介護・医療診療報酬改定に各科対応していく。

H30 年 9 月受審する医療機能評価の準備を行う。

薬局

【スタッフ】

常勤薬剤師 5 名、非常勤薬剤師 2 名

【目標】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて医療の提供を実践する。

1. 医療サービスの向上に努める。
2. H28 年診療報酬改定に対応する。
3. 病棟薬剤業務加算取得を継続する。
4. 目標数字を達成する。
5. 人材を育成し、各職員が人事評価制度における自己目標達成をめざしレベルアップを図る。
6. 機能評価審査受審に必要なデータの蓄積、マニュアル改訂を継続する。
7. 医薬品情報の伝達
8. 天災・災害時、新型インフルエンザ発生等における医薬品供給のマニュアルを整備する。

【活動報告】

1. 病棟薬剤業務加算を取得継続した。
薬剤師が病棟業務において医師の処方設計に関わり、その成果をプレアボイド報告として実績を積む事ができた。医薬品使用患者の安全、副作用防止に寄与できた。
地域包括ケア病床数が増えたことにより薬剤管理指導算定件数、退院指導算定件数は減っているが、H28 年 4 月診療報酬改定により、後発品使用体制加算、薬剤総合評価調整加算、同管理料、連携管理加算が算定可能となり、これらの算定に努力した。
2. すべての抗がん剤調製を、閉鎖式器具を使用して薬剤師がおこなった。
3. ほとんどの病棟で定期の一般輸液調製を薬剤師が実施している。
4. 積極的に医師の処方支援、PBPM に基づく業務を行った。

【実績】

H28年	入院人数 (人)	服薬指導 人数 (人)	服薬 指導率	380点 (件)	325点 (件)	退院90点 (件)	退院 指導率
4月	135	110	84.60%	99	92	21	100%
5月	137	125	91.20%	73	52	29	76.30%
6月	147	121	82.30%	131	77	31	88.57%
7月	134	120	89.50%	115	74	20	66.60%
8月	141	131	92.90%	154	91	26	96.20%
9月	138	125	90.50%	153	87	25	67.50%
10月	146	121	82.80%	114	76	24	68.50%
11月	134	112	83.60%	119	58	15	65.20%
12月	143	96	67.10%	79	59	26	81.25%
1月	128	110	85.90%	119	53	15	71.40%
2月	137	90	65.60%	76	44	21	84.00%
3月	135	87	64.40%	52	35	24	85.70%

【教育】

日本老年学会参加
医薬品安全管理責任者研修会参加
日本病院薬剤師会療養病床委員会セミナー参加
日本病院薬剤師会中小病院薬剤師実践セミナー参加
滋賀県病院薬剤師会学術大会参加
京滋 NST 研究会参加
日本病院薬剤師会近畿学術大会 参加・発表
日本静脈経腸栄養学会学術集会参加

その他、病院薬剤師会、薬剤師会主催研修会に多数参加

【今後の課題】

- ・病棟薬剤業務加算を継続、充実を図り、医療チームの中で薬剤師職能を生かして情報を発信する。
- ・PBPM（薬物療法プロトコルを医師と作成し、それに基づく実施と管理を行う事）に基づく業務を拡大する。
- ・後発品使用体制加算継続、EBMに基づくポリファーマシーに取り組む。

診療放射線科

放射線科

【スタッフ】 常勤診療放射線技師 4名

- 【目標】
1. 医療サービスの質向上に努め地域からの信頼を得る。
 2. 科内の安全管理を行い事故防止に努める。
 3. 健全な経営を徹底する。
 4. 科内スタッフのモチベーションの向上に努める。

【活動報告】

H25年6月に診療放射線技師等の業務拡大について法改正がされ、造影注入器を用いた造影剤の投与等の業務が実施可能となった。そのため日本診療放射線技師会主催の統一講習会に4名中2名が参加し、改正された業務に勤められるように環境を整え、また残り2名も随時講習会に参加をする予定である。

【実績】 <CT撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H27	245	222	239	252	228	225	255	259	240	210	223	224	2822
H28	226	239	247	238	246	229	261	225	238	242	246	273	2902

<MR I撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H27	92	74	99	109	101	75	91	87	86	74	107	98	1093
H28	72	88	90	101	95	92	100	81	78	95	88	68	1040

<一般撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H27	542	580	663	670	574	547	616	559	527	527	702	594	7101
H28	497	668	717	653	606	579	702	575	554	519	587	543	7200

総件数昨年比：CT（3%増） MRI（5%減） 一般撮影（1%増）

- 【教育】・第19回 関西 GECT 研究会 ・第44回 関西 CT 画像研究会 ・大阪胃腸会
・平成28年度 業務拡大に伴う統一講習会 ・シーメンス RSNA2016 速報セミナー
・胸部（呼吸器）疾患を診るために必要な知見を得る ・第39回 近畿支部放射線研修会

【今後の課題】

- ・CR装置が10年を超えたため、CRもしくはFPD更新を検討
- ・MRIが15年目に入っており、更新及び設置場所の検討もしくは、病院の機能を考慮し今後MRIが必要かの検討を行う。

臨床検査科

臨床検査科

【スタッフ】

生理検査部門	常勤臨床検査技師	1名	科長 鯉江 賢二
	非常勤臨床検査技師	1名	非常勤事務職員 1名
検体検査部門（ブランチラボ）	常勤臨床検査技師	1名	
	非常勤臨床検査技師	2名	

【目標】

検査病態を意識し検査業務に取り組む事をモットーとし、患者に不可欠な臨床検査を目指します。

【活動報告】

当臨床検査科は生理検査部門と検体検査部門に分かれています。生理検査部門は心電図等の循環器検査並びに呼吸機能測定等の生理検査を実施しています。呼吸機能検査では肺活量やフローボリュームの測定だけでなく、DLco（肺拡散能力）検査ができる総合肺機能測定装置フクダ電子㈱を使用して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。また、睡眠時無呼吸症候群の診断に役立つ携帯型SAS検査を導入致しました。検体検査部門は2005年12月1日よりブランチラボ（検査センターメディック）になりました。院内にて緊急項目の血液並びに尿検査を実施しています。

【実績】

生理検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会員
- ③ 日本不整脈心電学会員
- ④ 日本超音波検査学会
- ⑤ 日本睡眠学会員
- ⑥ チーム医療 CE 研究会員
- ⑦ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑧ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑨ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤

検体検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会会員

検体検査加算件数

平成 27 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算 件数	684	725	669	689	741	706	637	711	643	638	668	675	705
平成 28 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算 件数	644	665	651	618	678	643	620	639	670	648	640	620	630

評 価

2003. 12. 15 に日本病院機能評価 V4 認定

2008. 12. 15 に日本病院機能評価 V5 認定

2013. 12. 6 に日本病院評価一般病院 1 認定

社会保険事務局施設基準：検体検査管理加算（I）H15. 12. 1 受理

社会保険事務局施設基準（施設基準改正による）：検体検査管理加算（I）H20. 5. 1 受理

検体検査部門を平成 17 年 12 月 1 日からブランチラボとなりました。

【教育】

研修・勉強会

院内勉強会

- ① 心電図勉強会 “心電図（12誘導）について”
日時：平成 28 年 6 月 8 日（水）場所：臨床検査科生理検査室内
- ② CPAP ネーザルマスクの付け方と概要レポート発行操作法について
日時：平成 28 年 10 月 8 日（土）場所：臨床検査科生理検査室内

研修会・セミナー参加

- ① チーム医療 C E 研究会西日本主催 2016 心電図セミナー (自費研修)
- ② フクダ電子㈱主催 心電図講習会『運動負荷心電図の実際と見方』等
- ③ メディカルサウンズ主催 第 96 回実技セミナー「心エコーハンズオンセミナー」
- ④ フクダ電子㈱主催 心電図講習会 『声に出して覚える心電図』
- ⑤ 奈良臨工主催医療機器安全セミナー～知って得する ME 機器～ (自費研修)
- ⑥ 都臨技主催 基礎から学ぶ生理機能検査実技講習会 (その 3) (自費研修)
- ⑦ 都臨技主催 基礎から学ぶ生理機能検査実技講習会 (その 4) (自費研修)

- ⑧京臨技主催 肺機能検査研修会 (自費研修)
- ⑨滋臨工催 第1回医療機器 Basic セミナー (自費研修)
- ⑩三重県超音波研究会主催 第18回超音波研究会 (自費研修)
- ⑪岐臨技主催臨床生理部門(循環生理分野・超音波分野)合同研修会 (自費研修)
- ⑫睡眠健康フォーラム/フクダライフテック京滋(株)共催 第7回睡眠呼吸フォーラム (自費研修)
- ⑬京臨技主催 腹部超音波研修会 (自費研修)
- ⑭フクダ電子(株)主催 ホルター心電図講習会
- ⑮フクダ電子(株)主催 心電図講習会 『治療を要する不整脈の診かた』
- ⑯埼臨技主催 腹部超音波実技講習会 (自費研修)
- ⑰三県臨技主催 第1回臨床生理部門循環生理分野勉強会 (自費研修)
- ⑱京臨技主催 南部合同生理研修会 (自費研修)
- ⑲滋臨技主催 臨床生理 超音波検査実技講習会 実技領域心臓
- ⑳日本睡眠総合検診協会主催 睡眠医療技術講座 終夜PSG検査Ⅱ
- ㉑フクダ電子(株)主催 血圧脈波検査を学ぶ会 (自費研修)
- ㉒京臨技主催 エコー実技セミナー
- ㉓都臨技師会主催 呼吸実技セミナー
- ㉔奈臨床技主催 超音波定期勉強会5 (自費研修)
- 「画像検査LIVE VIEWING 1」心臓領域 左室機能評価の基礎(ドプラ計測2) 腹部領域
肝胆膵のプローブ走査の基礎:テクニックとコツ
- ㉕日本光電(株)主催 臨床心電図セミナー三重 (自費研修)
- ㉖フクダライフテック京滋(株)主催 第3回滋賀呼吸ケアフォーラム (in彦根Ⅱ)
- ㉗三臨技主催 第3回生理検査部門循環生理分野勉強会 (自費研修)
- ㉘日臨技主催 第4回近畿支部生理研修会
- ㉙奈臨技主催 超音波実技講習会(心臓)
- ㉚自動呼吸機能検査研究会主催 “びわこセミナー” (自費研修)
- ㉛循環・呼吸 SAS 研究会主催 第10回循環・呼吸 SAS 研究会 (自費研修)
- ㉜滋臨技主催 第4回臨床生理研修会 “下枝血管の初耳学” (自費研修)
- ㉝和臨技主催 第2回生理検査班研修会「超音波の基礎」 (自費研修)
- ㉞日立製作所ヘルスケア(株)主催 日立血管エコーセミナーin京都 (自費研修)
- 『～今更聞けない頸動脈エコー～頸動脈・ワンポイント下肢静脈』
- ㉟京臨技主催 血管超音波検査研修会 (自費研修)
- ㊱奈臨技主催 超音波実技講習会(心臓) (自費研修)
- ㊲日本不整脈心電学会主催 『心電図セミナー』 (自費研修)

【今後の課題】

臨床検査技師の超音波検査実施に向けて積極的に勉強中です。

栄 養 科

栄養科

【スタッフ】

常勤管理栄養士（3名） 常勤調理師（12名） 非常勤調理員、調理補助その他（4名）

【目標】

- 1) クリニカルサービス（栄養管理）とフードサービス（給食管理）の両面から「体と心に対し、調和のとれた食事」の提供を目指す。
- 2) N S Tの充実を図るとともに、各種地域連携パスに参画し、地域に向けた総合的な栄養ケアに取り組む。
- 3) ムダを省き、増収に繋がる業務を遂行する。
- 4) スタッフの自己啓発を支援し、心身の健康管理に留意

【活動報告】

- 1) N S T活動において、嚥下訓練食・経口移行への複雑な個別対応、注入食の提案、栄養補助食品の用途別提案などで食事摂取量の増加、栄養状態の改善に努めた。
- 2) アレルギー対応マニュアルの作成
- 3) 異物混入などのインシデント防止に対する作業手順などの見直し
- 4) 糖尿病教室及び生活習慣病教室の定期開催

【実績】

収益（療養費）

月	療養費収益及び特食比率				
	特別食	比率 (%)	一般食	比率 (%)	合計
4	1,695,014	24.2	5,310,653	75.8	7,005,667
5	1,862,516	25.2	5,553,683	74.8	7,396,199
6	1,854,886	21.7	5,541,824	78.3	7,396,710
7	1,914,134	26.7	5,263,160	73.3	7,177,294
8	2,115,612	33.7	5,062,434	66.3	7,178,046
9	1,978,444	29.9	4,638,290	70.1	6,616,734
10	2,256,756	31.7	4,862,878	68.3	7,119,634
11	2,258,264	33.3	4,524,529	66.7	6,782,793
12	2,237,830	32.2	4,715,310	67.8	6,953,140
1	2,314,774	31.8	4,972,504	68.2	7,287,278
2	2,038,472	31.4	4,459,557	68.6	6,498,029
3	2,422,890	35.0	4,506,480	65.0	6,929,370
合計	24,949,592	29.8	59,391,302	70.2	84,340,894

収益（指導料）

診療報酬	外来	入院	集団 (800)	N S T (2, 000)	合計
	1回目 2, 600 2回目 2, 000	1回目 2, 600 2回目 2, 000			
4月	9, 800	0	9, 600	20, 000	39, 400
5月	9, 200	2, 600	11, 200	16, 000	39, 000
6月	7, 200	7, 800	12, 000	16, 000	43, 000
7月	4, 600	9, 800	8, 800	20, 000	43, 200
8月	7, 200	7, 800	8, 800	20, 000	43, 800
9月	7, 800	2, 600	10, 400	22, 000	42, 800
10月	15, 000	10, 400	7, 200	20, 000	52, 600
11月	7, 200	0	8, 000	26, 000	41, 200
12月	5, 200	2, 600	9, 600	22, 000	39, 400
1月	2, 000	2, 600	6, 400	24, 000	35, 000
2月	11, 800	2, 600	11, 200	12, 000	37, 600
3月	12, 400	7, 800	10, 400	12, 000	42, 600
合計	99, 400	56, 600	113, 600	230, 000	499, 600

【教育】

(研修・研究)

- 滋賀県栄養士会主催研修会：管理栄養士
- 日本栄養士会主催研修会(TNT-D研修会)：管理栄養士
- 滋賀CDE：管理栄養士
- 日本静脈経腸栄養学会：管理栄養士
- 京滋摂食嚥下を考える会：管理栄養士
- 京滋N S T研究会：管理栄養士

【今後の課題】

- 1) N S T加算の増加
- 2) 特食率上昇の取り組み
- 3) 栄養指導件数の増加
- 4) 異物混入などのインシデントの減少

集 団 栄 養 指 導

2016 年度 集団栄養指導

糖尿病教室



*時間：第4木曜日 午後12時～午後1時半

*場所：研修室（療養棟下）

*内容：治療食の試食と各スタッフによる勉強会

1月26日（木）	看護師
2月23日（木）	医師（氏家歯科医師）
3月23日（木）	管理栄養士
4月27日（木）	理学療法士
5月25日（木）	看護師
6月22日（木）	管理栄養士
7月27日（木）	薬剤師
8月7日（月）	医師（岡本医師）
9月28日（木）	看護師
10月26日（木）	理学療法士
11月16日（木）	薬剤師
12月18日（月）	医師（岡本医師）



*8月、12月は月曜日に行いました

リハビリテーション科

リハビリテーション科

【スタッフ】

理学療法士 29 名、作業療法士 13 名、言語聴覚士 5 名の計 47 名
(内非常勤理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名含む)

【目標】

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。
 - 1) 回復期リハビリテーション病棟の充実したリハビリテーション（6 単位以上/日、365 日実施、休日単位数増加）の継続実施
 - 2) 地域包括ケア病床におけるリハビリテーション（2 単位以上/日）を充実させる。
 - 3) 急性期～維持期のどのステージにおいても医療から介護へシフトする機関であることを再認識し、退院支援・在宅復帰支援強化に努める。
 - 4) 障がい児者のリハビリテーションを充実させる。
 - 5) 訪問リハビリテーション人員を増加し、生活期リハビリテーションを充実させる。
 - 6) 老健センターと協同し、時代にあった里のリハビリテーションを再考する。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) FIM を用いてリハビリテーションの質、量、適正、効率を日々検討していきます。
 - 2) 退院前訪問指導をより早期に実施します。
 - 3) 病院機能評価付加機能（リハビリテーション機能（回復期））Ver. 3.0 受審の検討
 - 4) 院内・外での研修会参加、講義・講演活動を行い、スキルアップに努める。
 - 5) 文献検索システムにて、診療および研究活動に利活用する。
3. 各部門 各人が目標数字を定め、到達できるように日々努力する。
 - 1) 目標数字を達成する（32,132 万円）。
 - 2) 各部門リーダーは定期的に業績推移を確認し、効率的な業務運営をはかる。
 - 3) 経費を削減する。
 - 4) 全スタッフに目標達成に向けた取り組みや結果を毎日報告し、状況を共有する。
4. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。
 - 1) 近江八幡市の業務委託（総合事業、各種施策会議）等、積極的に取り組む。
 - 2) 各種セミナーや出前講座等での講演活動を行う。

【活動報告】

1. 回復期リハビリテーション病棟平均単位数は、6.67 単位（昨年度 6.4）、休日単位数 5.31 単位（昨年度 3.92）とサービス量は増大した（表 1 参照）。
2. 地域包括ケア病床平均単位数は、3.1 単位（昨年度 2.75）であった（表 2 参照）。

3. 回復期リハビリテーション病棟のアウトカム評価（サービスの質）も基準値 27.0 点を大きく上回った。
4. 年間収益は 313,426,590 円（予算比 97.2%、前年比 103.4%）であった。

【実績】

表 1—回復期リハビリテーション病棟実績 (2016.04.01～2017.03.31)

	回復期リハ病棟 (休日外)	回復期リハ病棟 (休日)	合計
① 回復期リハビリテーション病棟に入院していた患者の延入院日数	12120	2946	15066
② 上記患者に提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	84859	15659	100518
イ：心大疾患リハビリテーション総単位数	0	0	0
ロ：脳血管疾患等リハビリテーション総単位数	46262	8755	55017
ハ：運動器リハビリテーション総単位数	38597	6904	45501
ニ：呼吸器リハビリテーション総単位数	0	0	0
1日当りリハビリテーション提供数 (②/①)	7.00	5.31	6.67
算出期間における休日・休日以外の日数	293	72	365

表 2—地域包括ケア病床 リハビリテーション平均単位数 (2016.04.01～2017.03.31)

リハビリテーション提供総単位数		リハビリテーション 1 日平均単位数	
心大血管疾患リハビリテーション	0	心大血管疾患リハビリテーション	0
脳血管疾患等リハビリテーション	1866	脳血管疾患等リハビリテーション	3.38
(内訳) 廃用以外	1866	(内訳) 廃用以外	3.38
(内訳) 廃用	0	(内訳) 廃用	0
廃用症候群リハビリテーション	1967	廃用症候群リハビリテーション	3.2
運動器リハビリテーション	6504	運動器リハビリテーション	3.19
呼吸器リハビリテーション	609	呼吸器リハビリテーション	1.87
がん患者リハビリテーション	58	がん患者リハビリテーション	2.9
(除外) 処方と関連のない実施	0		
合計	11004	合計	3.1

【今後の課題】

1. 作業療法士・言語聴覚士の充足
2. 訪問リハビリテーション事業拡大

メディカル・フィットネスセンター ヴォーリス

【スタッフ】

常勤スタッフ 社会福祉主事・トレーナー 1名 介護福祉士 1名

非常勤スタッフ 健康運動指導士 1名 理学療法士 3名

【目標】

1. 介護予防デイサービス（要支援認定を受けておられる方に対するサービス）
開催日 月、木曜日の午前中
定員の 85 パーセント以上の安定的な稼働率を目標とする。
2. 新規事業の短期集中サービス（火・金曜日午前中に開催）
2016年5月からスタートの市からの委託事業となるサービスを軌道に乗せるため関係スタッフとの連携を取る。
3. 一般会員（自立生活を送られている方に対するサービス）
利用者の方へ健康に対する定期的な集団指導やイベントを企画して、利用者の健康への意識を高め退会数を減少させる。
4. 利用する全ての方へニーズや症例に応じたキメ細かいサービスを行えるように気をくばり利用者の QOL と顧客満足度の両方の向上を目指す。
5. 「里」内や他の関連事業所との連携を強く取り利用者数の増加を目指す。
6. スタッフの知識と技術の向上を図るため個々の専門分野のさらなる知識や技術の習得に力を入れ、それを他のスタッフへの研修で伝える事により個々の実力の向上を目指し利用者の方へより良いサービスを提供することを目指す。

【活動報告】

1. デイサービス 月・木 9:30 から 11:30 の運営
2. フィットネス会員 上記以外の時間（日・祝日を除く）
デイサービス、フィットネス会員共に有酸素運動機器や筋肉トレーニング機器などを使用して、基礎体力向上、身体能力向上、リハビリを目的とした運営を行いました。
3. 近江八幡市介護予防 日常生活支援総合事業（パワーあつぷ）
5月より近江八幡市より委託を受けて事業開始しました。
市役所や地域包括支援センターと連携をしながら対象となる高齢者を 3 か月間の短期集中プログラムで実施。ADL 向上や地域活動への参加機会を多く得られるように活動しました。

【実績】

	デイサービス		フィットネス		パワーあっぷ	
	利用者数	収入金額	会員数	収入金額	利用者数	収入金額
4月	15	470,754	48	200,592	0	0
5月	15	421,930	52	228,480	8	320,000
6月	14	402,460	54	219,282	9	320,000
7月	14	384,470	58	214,254	6	397,420
8月	12	311,890	59	205,536	5	342,120
9月	13	367,340	54	244,028	6	280,000
10月	12	332,220	64	219,552	6	358,710
11月	12	235,170	53	274,000	9	393,180
12月	11	201,760	53	277,114	8	296,590
1月	11	166,880	53	199,968	9	324,240
2月	11	205,150	53	202,490	8	364,240
3月	11	226,770	53	315,794	5	331,060
合計		3,726,794		2,801,090		3,727,560

【教育】

- ・介護サービス事業所・施設管理者等研修会
- ・介護予防研修会
- ・通所介護事業所 集団指導
- ・NSCA コンディショニングセミナー

【今後の課題】

- ・フィットネスセンターの収益確保のための今後の方向性の決定
- ・日常生活支援総合事業サービスC（近江八幡市からの委託）の事業の安定した運営
- ・フィットネス会員の会員確保のためのイベントの実施

ME サービス室

ME サービス室

【スタッフ】

常勤臨床工学技士 1名 室長 鯉江 賢二

【目標】

院内の医療機器の保守点検を行い、医療の質の向上と患者に対する医療サービスの向上を目指します。

【活動報告】

近年、多くの医療機器が医療の現場で使用されるようになりました。これらの機器を安全に信頼高く操作、管理することはたいへん重要です。当 ME サービス室（臨床工学部門）は、院内の医療機器の保守点検を行っています。そして在宅用の人工呼吸器並びに非侵襲的人工呼吸器と睡眠時無呼吸症候群の治療に経鼻的持続陽圧呼吸装置（CPAP）の貸し出しを行い、在宅医療に力を入れています。

【実績】

- ① 公益社団法人日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会実習指導者
- ② 公益財団法人医療機器センター在宅人工呼吸器に関する指導者
- ③ 米国集中治療医学会 F C C S インストラクターアシスタント
- ④ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑤ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑥ 日本不整脈心電学会員
- ⑦ 日本睡眠学会員
- ⑧ チーム医療 CE 研究会員
- ⑨ 公益社団法人日本臨床工学技士会員
- ⑩ 滋賀県臨床工学技士会員
- ⑪ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤

医療機器安全管理料件数

平成 27 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器安全管理料件数	1.75	3	3	3	0	1	1	1	3	3	0	1	2

平成 28 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器安全管理料件数	3.75	3	1	2	3	2	6	4	6	4	4	5	5

評 価

社会保険事務局施設基準：医療機器安全管理料 1 平成 20 年 4 月 1 日受理
2008 年 12 月 15 日に日本病院機能評価 V5 認定
2013 年 12 月 6 日に日本病院評価一般病院 1 認定

【教育】

院内勉強会

- ①従業者に対する医療機器安全使用の為の研修(株)エフ・ホップ CP-330[®] 使用方法
日時：平成 28 年 9 月 30 日（金）場所：2 病棟スタッフステーション
- ②CPAP ネーザルマスクの付け方と概要レポート発行操作法について
日時：平成 28 年 10 月 8 日（土）場所：臨床検査科生理検査室内
- ③非侵襲的人工呼吸器（NPPV）の回路交換とチャンバーと回路洗浄方法について
日時：平成 28 年 10 月 14 日（金）場所：1 病棟 121 室
- ④新しい医療機器の導入時の研修 人工呼吸器 Flight 60[®]の使用方法について
日時：平成 28 年 11 月 18 日（金）場所：医局
- ⑤新しい医療機器の導入時の研修 人工呼吸器 Flight 60[®] の使用方法について
日時：平成 28 年 11 月 22 日（火）場所：1 病棟 112 室
- ⑥従業者に対する医療機器安全使用の為の研修 PCA ポンプ 機種 CADD Legacy[®] 使用方法について 日時：平成 28 年 12 月 5 日（月）場所：ホスピス
- ⑦新しい医療機器の導入時の研修 人工呼吸器 Monnal T 60[®] の使用方法について
日時：平成 28 年 12 月 7 日（水）場所：1 病棟 105 室
- ⑧新しい医療機器の導入時の研修 人工呼吸器 Monnal T 60[®] の使用方法について
日時：平成 28 年 12 月 9 日（金）場所：医局
- ⑨従業者に対する医療機器安全使用の為の研修 PCA ポンプ 機種 CADD Legacy[®] 使用方法について 日時：平成 28 年 12 月 14 日（水）場所：ホスピス
- ⑩新しい医療機器の導入時の研修 人工呼吸器 Monnal T 60[®] の使用方法について
日時：平成 28 年 12 月 20 日（火）場所：ME サービス室
- ⑪新しい医療機器の導入時の研修と従業者に対する医療機器安全使用の為の研修
人工呼吸器 Monnal T 60[®]とサーボ S[®]の使用方法について
日時：平成 28 年 12 月 21 日（水）22 日（木）27 日（火）場所：本館会議室

研修会・セミナー参加

- ①チーム医療CE研究会西日本主催 2016 心電図セミナー (自費研修)
- ②フクダ電子(株)主催心電図講習会『運動負荷心電図の実際と見方』等
- ③RSTJAPAN 主催第2回 RST-JAPAN 見逃していませんか?ラウト[®]時の異常サイン (自費研修)
- ④フクダ電子(株)主催 心電図講習会 『声に出して覚える心電図』
- ⑤奈臨工主催 医療機器安全セミナー ～知って得する ME 機器～ (自費研修)
- ⑥都臨技主催 基礎から学ぶ生理機能検査実技講習会 (その3) (自費研修)
- ⑦都臨技主催 基礎から学ぶ生理機能検査実技講習会 (その4) (自費研修)
- ⑧京臨技主催 肺機能検査研修会 (自費研修)
- ⑨スミスデ[®]イカルジヤ[®]ン(株)主催 CADD Legacy ポンプ ユーザートレーニングプログラム
- ⑩滋臨工主催 第1回医療機器 Basic セミナー (自費研修)
- ⑪岐臨技主催 臨床生理部門(循環生理分野・超音波分野)合同研修会 (自費研修)
- ⑫睡眠健康フォーラム/フクダライフテック京滋(株)共催 第7回睡眠呼吸フォーラム (自費研修)
- ⑬フクダ電子(株)主催 心電図講習会 『治療を要する不整脈の診かた』
- ⑭三臨技主催 第1回臨床生理部門循環生理分野勉強会 (自費研修)
- ⑮京臨技主催 南部合同生理研修会 (自費研修)
- ⑯日本睡眠総合検診協会主催 睡眠医療技術講座 終夜PSG検査Ⅱ
- ⑰都臨技主催 呼吸実技セミナー
- ⑱日本光電(株)主催 臨床心電図セミナー三重 (自費研修)
- ⑲フクダライフテック京滋(株)主催 第3回滋賀呼吸ケアフォーラム (in彦根Ⅱ)
- ⑳三臨技主催 第3回生理検査部門循環生理分野勉強会 (自費研修)
- ㉑日臨技主催 第4回近畿支部生理研修会
- ㉒自動呼吸機能検査研究会主催 “びわこセミナー” (自費研修)
- ㉓循環・呼吸 SAS 研究会主催 第10回循環・呼吸 SAS 研究会 (自費研修)
- ㉔WARC 呼吸ケア研究会主催 WARC セミナー “NPPV を理解する HFNC もあるよ!” (自費研修)
- ㉕奈臨工主催 テルモシリンジポンプ講習会 (自費研修)
- ㉖日本不整脈心電学会主催 『心電図セミナー』 (自費研修)
- ㉗奈良県臨床工学技士会主催 第15回人工呼吸器安全セミナー (自費研修)

【今後の課題】

NPPV のマスクの装着と機器について勉強会を実施したい。

看護部

【H28 年度活動計画及び実績】

- 1) 患者・家族の QOL 向上に向け質の高いケア提供できる看護部門構築
 - ・ ナイチンゲール看護論を原理とした個別的看護実践が展開に向けて「目的論」「対象論」の勉強会を年 2 回開催し原理の共有を図った。
 - ・ 看護部内に在宅療養支援課を設立し、2016 年 8 月より「退院支援加算 2」を取得しチームにて「患者やその家族が望む場所で療養・生活できること」を支援できる体制を強化した。
 - ・ 認知症ケアの質向上を目指し、「認知症ケア加算 2」を取得し病院委員会を設置した。認知症ケア研修修了者 29 名が中心となり「研修会」「症例検討会」開催し計画的に取り組めた。院内認知症デイケアも定着し介護福祉士の介入により個別的ケア実践に繋がった。
 - ・ 院内感染による週 1 回ラウンドと、院内感染レポートによる啓蒙活動により、タイムリーな改善に結びつき、院内感染事例はなく、安全、安心なケア提供に繋がった。
 - ・ 専任医療安全管理者によるラウンドを開始し、危険因子の発見から予防、対策の指導が行われ、「医療安全」への意識が高まった。加えてインシデント・アクシデントカンファレンスが定例化した。半面「針刺し事故」5 件発生した。
 - ・ 機能評価委員会が中心となり自己評価を行い改善に向け取り組んだ。
- 2) 病院経営に貢献する
 - ・ 院内病床ミーティング（週 1 回）、看護部ミーティング（毎日）と病院管理者による日々の病床状況確認・対策会議（毎日）を開催連携しながらタイムリーな病床管理を行った。
 - ・ 各病棟の機能に合わせた算定要件を熟知し病棟運用が出来た。1916 年 11 月より在宅復帰機能強化加算（療養病棟入院基本料 1）、2017 年 1 月より回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を取得し収入への貢献を果たした。
 - ・ 看護部内応援体制を構築し、無駄のない人材管理を可能とした。
 - ・ 勤務体制プロジェクトを立ち上げ、スタッフ目線で看護体制の課題を議論し、①委員会の在り方、②夜勤体制の現状と課題について提案が出された。開かれた組織としての活動となった。
 - ・ 経営戦略シート（BSCシート）を活用し、看護サービスの向上による経営貢献についての理解が深まり、「経営マインド」の熟成の第一歩となった。
 - ・ 「診療報酬」についての学習会を開催し、看護実践と収入の関係について全スタッフが学ぶ機会となった。
- 3) 新人、現任教育の充実を図り、より良い「看護」を担う人材育成を行う。
 - ・ 人事制度による目標管理の基、一人一人のキャリア支援を行った。
 - ・ 「新人看護職員研修アドバイス事業」に参加し、新人教育ラダーの改正を行った。

- ・自施教育ラダーに添った、院内研修（eラーニング活用）、院外研修（190名参加）にてキャリア支援できた。＊詳細は各部署報告参照
- ・里内におけるケアの連携と質向上を目的とし「里ケア会議」を定例化し、他部署体験研修を実施した。

4) 生き生きとやりがいのある職場づくりを促進し人材確保と定着に努める。

- ・県内外就職合同説明会1回参加、県内・外看護学校訪問を行い、県外看護学校1校、高等学校2校、次年度就職説明会参加に繋がった。
- ・院内「WLB推進委員会」によるインデックス調査結果から課題として、時間外勤務への負担感が明らかとなった。
- ・各病棟での「院長、事務長と語る会」は継続できた。
- ・職員動向

離職率	平均年齢	年間有休休暇取得
12.9%	39.8才	84.4%

【H28年度の課題】

- ・「ナイチンゲール看護論」看護理論を継承しつつ看護記録システム変更を行ない時間外の80%を占める記録時間の短縮を目指す。
- ・現行の教育ラダーの見直し「クリニカルラダー日本看護協会版」を活用し、当院らしい「教育ラダー」に修正する。
- ・スペシャリスト育成の支援を継続する。
- ・平成30年受審する病院機能評価に備え、自己評価から見える課題に取り組む。
- ・感染、医療安全、倫理への意識を高め、看護・介護サービスの質向上を継続して目指す。
- ・目標管理の指標である「ステップアップシート」と教育ラダーを連動させる。
- ・看護管理能力（人・モノ・カネ・情報・環境）を高めるための学びを継続する。
- ・経営戦略シート(BSCシート)にて「マネジメントシート」を活用し管理していく。
- ・地域包括ケアシステムにおける当院の役割を果たすべく、在宅療養支援課の業務拡大を図る。
- ・WLB推進活動を継続し、「動機付け要因」「衛生要因」を使い、看護・介護の専門職者としてキャリアアップを継続支援していく。
- ・これからの医療・看護会の動向を把握し平成30年の「診療報酬・介護報酬同時改定への対策を検討していく。
- ・電子カルテの更新にむけプロジェクトチームを中心に取り組む。
- ・リクルート活動を継続し計画的に行い、病院サービスに必要な「人材」の確保を行う。

1 病棟

1 病棟

【スタッフ】

看護師	23名（うち看護師長1名、主任2名）＜常勤18名、非常勤5名＞
准看護師	5名＜常勤4名、非常勤1名＞
看護補助者	8名＜常勤6名、非常勤2名＞
事務補助者	3名＜常勤3名、非常勤0名＞

【目標】

1. 経済性を考慮した病棟運用を行い、病院経営に貢献する。
2. 高齢者・認知症ケアの充実をはかり安全で安心できる治療療養環境を提供する。
3. 新人・現任教育を行い看護・介護のレベルアップを目指す。
4. やりがい感を持って個々の力を発揮できる職場づくり

【活動報告】

- 1-①地域包括ケア病床は、地域医療課、リハビリテーション科、医師事務と定期的な会議を持ち運用について検討、100%の稼働維持・算定要因クリア
 - ②一般病床は、重症患者や治療が長引くケースが続き、医療・看護必要度はクリアできたが在院日数が長期化した。
 - ③他病棟の入院待機患者、レスパイトも積極的に受け入れた。
- 2-①認知症ケアの充実 院内デイケア「ひだまり」を定例化
241回開催/年、延べ参加人数1,985人
 - ②インシデント 100件、アクシデント 29件、内容別では転倒転落が多い。
コールマット5台、センサーベッド1台、ワンダーマット10台を購入し、安全対策に努めた。
- 3-①院内、院外の研修を通して、個々のレベルに合わせたキャリア支援を行った。
 - ②新人看護師教育をプリセプターを中心にチームで行いながら、現任看護師も共に成長することができた。
 - ③ケアワーカーの配置により、看護補助者との協働による業務改善の取り組みを開始し、休日勤務体制の変更を行った。
- 4-①目標管理面談を行い、時間管理・WLBを考えた働き方の推進とキャリア支援を行う中で、自分のやりたい看護について考える機会を持ち、目標に取り入れていった。

【実績】

平成 28 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
一般病床稼働率	75.14	88.1	88.6	90.6	87.5	88.6	86.05	82.1	80.4
地域包括ケア病床	101.5	100	100	100	99	101	101.9	100	99.5
一般入院数	44	52	59	41	46	48	54	45	49
一般退院数	41	41	39	31	35	43	54	25	33
平均在院日数	16.22	19	17.2	18.6	20.4	17	17.58	17.8	18
看護必要度 (%)	12.4	11.4	12.9	12.1	9.7	24.2	23.2	20.5	21.3
平成 29 年	1 月	2 月	3 月	年間平均					
一般病床稼働率	87.3	82.2	86.7	85.27%					
地域包括ケア病床	99.5	98.6	99.8	100.07%					
一般入院数	39	50	41	47.33 人					
一般退院数	24	33	30	35.75 人					
平均在院日数	20.4	19.4	25.52	18.93 日					
看護必要度 (%)	27.5	18.7	17.8	17.64%					

【教育】

* 院内研修に加え、スタッフレベルに合った院外研修に参加

病棟内研修「医療・看護必要度について」

院外研修 延べ参加人数 63 名

医療・看護必要度評価者修了 5 名

認知症ケア修了 5 名

* 看護学生の臨地実習受入れ 7 グループ

* 看護研究 「入院看護ケアに対する満足度についての研究」

—患者と職員の意識の実態調査—

【今後の課題】

1. キャリア開発支援のあり方（新人教育、子育て中の職員、非常勤職員）
2. 退院支援における看護師の役割とチームケア
3. 院内デイケアの継続とケア評価（運用の見直しとケア内容の充実）
4. 地域包括ケア病床 13 床の活用方法と一般病床の有効な稼働
5. 看護クランク、看護補助者との協働によるWLBを考慮した業務改善

2 病棟

【スタッフ】

看護師	18名（うち看護師長1名、主任1名）＜常勤13、非常勤5名＞
准看護師	2名＜常勤0名、非常勤2名＞
ケアワーカー	10名（うち主任1名）＜常勤8名、非常勤2名＞
看護補助者	4名＜常勤4名、非常勤0名＞
事務補助者	2名＜常勤2名、非常勤0名＞

【目標】

1. 安定した病床稼働率と退院支援強化に貢献する。
2. 看護・介護のケアの質の向上と、退院支援の体制構築
3. 危機管理体制を強化し、信頼される看護・介護の提供
4. スタッフ個々が、やりがい感を持ち患者サービス向上につなげる。

【活動報告】

1. 病棟稼働率 98.08%（重症比率 34%・重症者改善比率 69%・在宅復帰率 89%）
7月からのプロジェクト委員中心に、回復期リハビリテーション病棟入院料1獲得に向け具体的対策を持ち1月の実績、3月の取得へと結びつけられた。
病棟での退院支援強化に関しては、BSC作成には至らなかったが病棟独自の退院支援フローを作成し退院調整を他部署と共に連携しおこなえた。
2. 昨年度から開催している「デイサロン」は毎日開催し、認知症患者への関わりをスタッフ一人ひとりが考え取り組めた。認知症ケアの基礎的知識の向上、個別的ケアの充実が課題でもある。また、全人的ケアへの取り組みは具体的には至らずケアを語る会などを取り入れ、皆でケアについて考える機会を持ちたい。
病棟の業務改善係を中心に「入院時のしおり」を作成、評価、修正した。
レクレーション係では夏祭り、運動会、クリスマス会など毎月のお誕生日会と同様に3大レクにも取り組んだ。
院外では毎月、輪番制で「三方よし」にも参加、後期「つながりネット」で医療度の高い患者の退院支援について院外発表を行った。
3. 毎月の詰め所会では、病棟単位の管理データを伝え、皆が病院・病棟運営に参画しているという意識付けに取り組んだ。
感染対策に関しては、後期インフルエンザの発症がみられたが、院内マニュアルに準じ早期対応で感染拡大防止につなげられた。
アクシデントでは表皮剥離や転倒による骨折といった事例が発生した。

皆でタイムリーな振り返り、カンファレンスを持ち予防対策に取り組んだ。

看護記録システム移行に伴い、KOMI 理論に沿った事例発表会には至らず。システムの運用に皆が後期苦渋したが今後、理論を押さえた看護・介護展開に取り組んでいく必要がある。

4. 個人面談に関しては、前期にかけてスタッフ全員終了。年度末にかけて振り返りと次年度にむけての課題を終了できた。

回復期リハビリテーション病棟入院料1での看護師体制（夜勤看護師2名）に伴い、後期業務改善や課題を出し詰め所会等で検討。体制構築につなげられた。また、後期は個々の時間外短縮に向けて個人の時間管理・WLB、師長・主任・リーダーを中心に個々への働きかけや采配を具体的に実施した。後期時間外平均（看護師9.2時間・CW4.3時間・看護助手1.9時間）次年度は年間通じて時間外時間の抽出や業務改善に取り組み時間外削減につなげる。

近江八幡市立看護専門学校1年生～3年生まで実習を受け入れた。実習指導者中心に効果的指導が行えるようスタッフ全員で指導にあたる。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平均年齢 (男女)	78・80	75・83	75・82	72・82	70・82	73・76
入院入棟数	17	18	17	14	18	13
退院転棟数	17	21	14	18	17	11
稼働率	99.7	98.0	98.5	96.5	97.3	96.3
在宅復帰率	81.3	94.7	100	83.3	88.2	100
在院日数	69	70	74	69.5	73.8	75.7
重症者改善率	50	86	100	67	86	67
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均年齢 (男女)	71・79	77・79	78・81	76・82	71・83	65・85
入院入棟数	16	13	15	19	17	16
退院転棟数	17	14	13	19	13	17
稼働率	97.6	98.2	97.5	96.4	97.9	96.9
在宅復帰率	80	92.9	75	94.4	92.3	86.7
在院日数	86.6	85.3	82.2	74.3	70.8	67.2
重症者改善率	71	33	71	100	67	25

【教育】

院外研修

- ・看護師：33 研修
- ・ケアワーカー：10 研修
- ・看護事務補助者：1 研修

看護研究

- ・回復期リハビリ病棟でのデイケア
～デイケアが与える影響～

実習

- 近江八幡市立看護専門学校 1 年生：基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
2 年生：成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ
老年看護学実習Ⅱ
3 年生：老年看護学実習Ⅲ（2クール）

【今後の課題】

1. 回復期リハビリテーション病棟入院料1に必要な情報や課題を戦略的に取り組み体制維持をはかる。また、病床ミーティングを活用し、スムーズな入院の受け入れと退院支援を進める。業務量の可視化を行い、チーム全員で業務改善に取り組み、個人のタイムマネジメントをおこなう。

2. スタッフ個々の認知症患者への基礎的知識を高め、個別性のその人らしさを生かせるデイサロンを運営する。個別ケア、認知症ケア、回復期リハビリケアへの充実をはかるためケアを語る会をおこなう。KOMI 事例発表を1人1事例実施する。

3. 退院支援の質向上を目指し、段階的な教育システムの構築、実践。病床会議やWカンファレンスを基に、受け持ち看護師とCWは退院支援を他部署と連携し、チーム全体で退院調整に取り組む。

4. クリニカルラダーによる能力評価

新人教育（看護師・介護福祉士）マニュアルに沿って新人を皆で育成する。

人事制度、各自目標シートに沿ってスタッフの個人面談をすすめていく。

新人指導、学生指導をスタッフ全員で関わる風土作りを実施していく。

3 病棟

3 病棟

【スタッフ】

看護師	18名（うち看護師長1名、主任1名）＜常勤13名、非常勤5名＞
准看護師	2名 ＜常勤2名＞
ケアワーカー	15名（うち主任1名）＜常勤15名＞
看護助手	6名 ＜常勤4名、非常勤2名＞

【目標】

- 1、健全な病棟運営を行い、病院、里、地域での役割を果たす。
- 2、患者・家族に寄り添い、その人らしさを支える看護、介護を提供する。
- 3、新人、現任教育が充実し専門知識を高めレベルアップを目指す。
- 4、感染、医療安全の意識を高め、安全で安心出来るケアを提供する。

【活動報告】

- ・一昨年度より入院基本料1へ変更し区分の高い患者様の受け入れを行い、患者数平均57.3人 稼働率96.2% 医療区分2,3割合87.2% 在宅復帰率52.3% 退院支援強化を継続し地域のニーズに対応した。
- ・看護計画を随時見直し患者家族との定期面談を充実させ療養生活が安心安全に提供できるように取り組んだ。ケースカンファレンス、デスカンファレンスを行う事で質の向上に努めた。
- ・多くの院内外の研修会に参加出来た。目標面談は定期的に行えたが育成シートに沿った教育が出来ていない。eラーニング聴講が不十分であった。
- ・安全な機器点検と看護用具物品点検を確実にを行い、インシデントレポート80件、アクシデントレポート32件の振りかえりがタイムリーに出来るようになった。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数 (人)	59.1	55.9	57.3	56.8	57.4	57.6	57.1	58.2	56.1	57.9	59.6	59.8
稼働率 (%)	98.6	93.2	95.5	94.1	95.2	94.7	95.2	96.1	93.5	95.9	99.1	99.2
医療区分 (%)	82	81	84	84	75	90	90	91	93	93	93	92
在宅復帰 率 (%)	0	22	10	40	22	75	75	67	60	57	100	100

【教育】

① 病棟勉強会

- | | |
|---------------|--------------------|
| 「急変時対応、心肺蘇生法」 | 「経管栄養・胃瘻チューブ管理」 |
| 「医療区分について」 | 「食事移乗排泄入浴について体験学習」 |
| 「褥瘡ケア」 | 「オムツの当て方」 |
| 「コミュニケーション」 | |

② 院外研修会

- | | | |
|---------------------------------|--------------------|-------------|
| 「介護職だから出来る事」 | 「プリセプター研修」 | |
| 「医療機器B a s i cセミナー」 | 「薬を安全に投与するための注意事項」 | |
| 「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」 | 「看護研究のスキルアップ研修」 | |
| 「16 重症度医療看護必要度評価者院内指導者研修」 | 「自殺未遂者への対応について」 | |
| 「輸血研修」 | 「ファーストステップ研修」 | 「労務管理の基礎知識」 |
| 「看護の社会的責務と法的根拠」 | 「新人看護職員研修」 | |
| 「病院から在宅へシームレスな療養を支援するための看護職の役割」 | | |
| 「口腔機能を学ぼう安全に学ぶ口作り」 | | |
| 「生き生きと働き続けられる准看護師のキャリアアップ」 | 「三方よし研究会」 | など |

③ 看護研究

テーマ「多くのスタッフの意見を取り入れたデスカンファレンスが実施できる」

④ 実習 近江八幡市立看護専門学校 5 グループ

【今後の課題】

- ・ 平均患者数、稼働率、在宅復帰率、医療区分 2, 3 の比率を維持
- ・ 事例検討会、カンファレンス、患者家族の定期面談を充実させ安全安心の療養環境の提供
- ・ 係り活動の充実、病棟チーム（看護師、看護補助者）の連携強化を図り、働きやすい職場環境を推進
- ・ eラーニングの視聴率を増やし知識、技術の向上
- ・ 有休消化率、残業時間が職種によってのばらつきが見られる。残業の背景にある業務内容を可視化して改善に努める。
- ・ 育成シートに沿った人材育成

緩和ケア病棟

緩和ケア病棟

【スタッフ】

看護師	16名（うち看護師長1名、主任1名、緩和ケア認定看護師1名） ＜常勤14名、非常勤2名＞
ケアワーカー	4名 ＜常勤4名、非常勤0名＞
看護助手	2名 ＜常勤2名、非常勤0名＞
看護事務補助者	2名

【目標】

- 1、チームケアの充実を図り、全人的ケアを提供する。
- 2、システムの評価・修正により、病院経営に貢献するホスピス運営を行う。
- 3、危機管理体制を徹底し、安心・安全なケアを提供する。
- 4、ストレスマネジメント能力の向上を図り、自己啓発の支援を行う。

【活動報告】

- ・ 10月23日ホスピス10周年記念講演会を開催し300名の参加があった。
- ・ 緩和ケア認定看護師がELNEC-J指導者として院外にて活動。院内では認定看護師の介入により診療報酬の算定(在宅患者訪問看護指導料)のシステム構築ができた。
- ・ 近江八幡市立総合医療センターで細井医師にて院外コンサル継続中(1回/週)
- ・ 環境整備として畳の張替え、家族室の布団交換をした。
- ・ 遺族会2回/年(6月、11月) ホスピス通信12月発行
- ・ 研修受け入れ

豊郷病院附属准看護学院11名 2.5日間

滋賀医科大学6回生2名 3週間

関西学院大学人間学部4回生1名 2週間

近江八幡市立看護専門学校3年生37名

滋賀県立大学人間看護学部22名 2週間

国際医療大学4年生10名

【実績】

- ・ 外来数：698名（初診167名、再診531名）
- ・ 相談件数：39件（登録患者35件 新規患者4件） ・ 見学者数：2名
- ・ 遺族会：偲ぶ会 2回/年（延べ19家族、28名参加）、ライラックの日 32名参加
- ・ インシデント件数：95件、アクシデント件数：28件
- ・ 在宅見取り：6件 ・ ホスピス通信：1回/年発行

	入院	退院	稼働率	コンサル	転入	在院日数	在宅率
4月	16	18	70.6	8	1	28.31	11
5月	17	19	58.83	3	1	21.98	1
6月	15	13	81.9	3	1	20.12	54
7月	14	17	78.4	1	2	22.0	17
8月	19	20	72.6	0	2	21.9	25
9月	12	13	77.6	3	1	22.4	31
10月	19	20	76.01	1	1	21.35	25
11月	16	19	71.0	4	4	20.1	21
12月	14	19	66.9	1	0	17.5	16
1月	18	12	62.4	1	2	17.6	41
2月	10	15	74.8	4	1	20.3	40
3月	14	12	72.4	1	2	23.5	33
平均	15.33	16.41	71.9	2.5	1.5	21.42	26.25

【教育】

- ・ 京滋緩和ケア研究会：2回/年 延べ9名参加
- ・ 第39回日本死の臨床研究会年次大会：2名参加（発表：ポスター1例）
- ・ 日本ホスピス緩和ケア協会年次大会：3名参加
- ・ E L N E C - J 受講修了者：4名 受講率81% ・ 院外研修参加数：延べ58名

【今後の課題】

- ・ 目標稼働率達成に向けて院内外での具体的計画の立案
（啓発活動、多様なニーズへの対応など）
- ・ チームケアの充実
（病棟内でのツールを使った充実したカンファレンス、多職種連携強化）
- ・ 時間外削減の工夫
- ・ ホスピスボランティア活動の推進と活動におけるコーディネートを強化する。
- ・ 日本緩和ケア協会でも目標とされているPCUスタッフ半数以上のE L N E C - J 受講修了の推進

外 来 部 門

外来部門

【スタッフ】

看護師 10名（うち師長1名）＜常勤2名、非常勤8名＞

准看護師 2名 ＜常勤0名、非常勤2名＞

看護補助者 1名 ＜常勤0名、非常勤1名＞

【目標】

- ① 患者・家族が在宅で活用できるケアを提案・提供し、看護の質の向上に努める。
- ② 安全・安心なケアを提供し、医療事故防止に努める。
- ③ 他部署との連携を図り、病院経営に参画する。
- ④ 個々の自己啓発・自己成長を支援し、スタッフの育成に努める。

【活動報告】

- ・4月から手術室での麻薬管理はせず、薬局管理に変更した。（緊急時はオンコール）
- ・新しく外来問診票を作成し、5月より運用を開始している。
- ・中材にて6月より各部署の中材物品の確認を、毎週水曜日に行う。
→10月～、月2回水曜日に変更
- ・中材物品の返却を、10/11～月・水・金に変更する。
- ・8月30日・31日、中材にて環境濃度調査施行（日吉業者）
- ・9月7日～、1診から6診までのスタンド式血圧計を、水銀なしに変更
- ・内視鏡の胃カメラ1台とヒートプローブ1台、新規購入する。
- ・10月～洗浄用水に使用していた、強酸性水の製造を中止とした。
- ・職員インフルエンザ予防接種（11/7、8、21、22の15時～16時）施行
- ・企業インフルエンザ予防接種（11/1～28まで）施行
- ・処置室の薬品収納する鍵付きキャビネットを新規購入し、薬品管理を行った。
- ・各部署の退院前カンファレンス参加件数：2016年4月～2017年3月、52件
（昨年11件）

【実績】

・ H28 年 4 月～H29 年 3 月までの手術件数・術前・術後訪問件数

手術件数	術前訪問件数	術後訪問件数
50 件（局麻含む）	48 件	31 件（62%）
H28 年 4 月～H29 年 3 月の手術件数： 76 件		

・ H28 年 4 月～H29 年 3 月までの内視鏡室 各検査件数（年間集計）

腹部超音波	胃カメラ	大腸カメラ
1,286 件 （昨年 1,369 件、-83 件）	1,048 件 （昨年 1,057 件、-9 件）	132 件 （昨年 169 件、-37 件）

・ インシデント、アクシデント年間集計（H28 年 4 月～H29 年 3 月）

インシデント 24 件、 アクシデント 1 件（検査中に表皮剥離）

【教育】

・ 配信講義の活用で、学研ナーシングの集団受講を月 1 回実施

・ 勉強会

新薬指導について

内視鏡室エコーについて

超音波装置の掃除について

看護必要度の伝達講習 など

・ 手術室看護師の育成

【今後の課題】

・ 外来業務の見直し

・ 各病棟への応援体制

・ 継続看護の関わり方（外来が窓口となるよう関わっていく。）

在宅療養支援課

【スタッフ】

看護師 3名（うち看護師長 1名、主任 0名）＜常勤 2名、非常勤 1名＞

【目標】

安心して在宅療養できるために、院内外の連携を見直しながら退院支援の強化を図る。

【活動報告】

1. 日々のベッドコントロール機能を果たす。
2. 現退院支援システムの把握と見直しを行い、入院時から退院まで継続して支援を行う。
3. 患者・家族の思いを傾聴し、安心して在宅で暮らせるよう関わる。
4. 地域包括ケアシステムにおけるチームケアへの理解と自部署の役割向上に努める。

【実績】

- 1-① 入院時より患者情報の把握、病棟看護師との情報共有、カンファレンスへの参加、家族面談、地域への連絡、調整により退院支援に介入した。
看護部、患者支援センター内での入院時情報の早期把握と退院調整を行った。
- 2-① 院内退院支援システムを見直し、9月新しくマニュアル作成した。
② 各病棟との共同で入院1週間カンファレンスの定着
- 3-① 退院後訪問の実施 107件/年間（訪問看護と同行 5件/年間）
退院前及び中間カンファレンスの実施 208件/年間
- 4-① リンクナース会発足と退院支援システムの周知

【教育】

看護管理者セカンドレベル受講修了・・・1名
重症度、医療・看護必要度研修修了・・・1名
災害支援ナース（実務編）受講修了・・・1名

【今後の課題】

院内退院支援システムの周知を行い、退院支援に関わる個々の役割意識の徹底
リンクナース会、キャリア支援委員会との共同で病棟看護師の育成
通院患者、地域住民に対する生活、介護相談窓口としての機能を果たす。

事務部

【H28 年度活動計画及び実績】

1. 地域・顧客満足の得られる事業展開・運営、当院の役割（機能）を充実させ、地域連携業務の推進を目指す。
 地域ニーズ（地域包括ケアシステム）にきめ細かく対応できる態勢構築に注力。地域病院・施設・開業医との緊密な連携と情報収集を図り、院内へフィードバック。また「三方よし」をはじめ、各地域での地域連携会議に積極的に参加。近隣開業医の長期休暇時の連携態勢の企画・立案から運用、近隣開業医との情報交換会の実施等を主導した。
2. 事業計画・予算達成に寄与し、健全な病院経営の徹底を図る。
 予算進捗状況の院内情報共有化と課題克服に注力したが、収支バランスの適正化を図るに至らず、約 32 百万円の赤字決算となった。一方、電力自由化に伴い、里全体で電気代コスト 11%削減する等の成果をあげた。
3. 診療報酬届出・管理態勢の緻密度・精度向上を図る。
 チェック・考働態勢の見直しで精度強化。各種ランクアップ等のシミュレーション・申請を主導した。また近畿厚生局への各種届出時には、事前に部長会での説明・質疑を経て提出する体制を継続した。
4. 電子カルテの次期更新に向けての課題・方針・重点項目・スケジュールを明確化する。
 次年度電子カルテリプレイスに向け、他社ベンダーとの比較検証、部門別プレゼンを実施し、方向性決定への準備を行った。併せて、看護システムを入替え、安定稼働に注力した。
5. 職員の心身サポートで覇気・士気を高め、安心を提供できる環境整備に努める。
 WLB・メンタルヘルス事業の継続推進、職員ユニフォームの一新（レンタル制移行）、人事評価制度見直し等にもイニシアチブを取って関与した。
6. 新事業への関与として、平成 29 年 5 月開所の看護小規模多機能型居宅介護『友愛の家ヴォーリズ』に、建築関係・環境安全面、銀行との各種折衝、備品の手配等に大きく関わり、滞りなく進める事ができた。

【H29 年度の課題】

1. あらゆる面で、法令遵守態勢を主導しつつ、(株)プリオと連携し、経営改善プロジェクトを着実に押し進める。平成 30 年度の医療・介護報酬同時改定の情報前倒し収集に努め、病院の方向性・方針決定に反映させる為、速やかに申請・届出に繋げる。
2. 財務面での正念場と認識し、事業計画・予算達成に全力を傾注し、適正な経営資源の配分を従来以上に綿密に検証していく。適正人員配置態勢の確立、ワークライフバランスの観点から時間外業務の削減、業務の効率化を図り、併せて、法改正や一般社会常識・時流に即した就業規則の変更を随時実施していく。
3. 院内の一大プロジェクトである、6年ぶりの電子カルテリプレイスを滞りなく成功裏に導き、どの部門にも使いやすい、且つ強固なシステムを構築する。

医事課

【スタッフ】

常勤 10名 非常勤 6名

【目標】

<医事課>

- ① 「医業はサービスである」事を常に自覚し、患者サービスの向上を目指し、高度な医療サービスを提供する。
- ② 医事課職員の専門知識の向上と業務に必要な情報収集に努め、病院経営に繋がる情報や資料提供を行う。
- ③ 保険制度の変更や診療報酬改定への対応。適切な進歩管理、院内他部門との連携強化等により、適正かつ公正な診療報酬の請求を行う。
- ④ 日常業務の請求業務に力を入れ、業務の効率化・レセプト期間中の残業削減とともに、算定漏れの防止に努める。
- ⑤ 未収金の管理、催促及び徴収に努める。

<健診室>

- ① 売上予算実績の5,174万円を達成する。
- ② 健診運営の安定化・平均化を図る。
- ③ 新規開拓を計画し、実施する。
- ④ 健診が円滑に進める仕組みの見直し
- ⑤ 各2次検診・検査の促進運用の明確化を図る。
- ⑥ 消費税増税分による価格の見直し
- ⑦ 職員の能力アップを図る。

【活動報告】

<医事課>

- ① 今後算定可能な項目がある診療報酬において、算定要件を満たすよう各部門と協力し算定した。
- ② レセプト請求業務は、医療事務の質を評価する上で、レセプトの「査定」「返戻」の数値は重要です。電子カルテ導入により、病名漏れや旧保険証にての請求で査定や返戻があった。査定・減点を減少することを目標に、日々病名チェックの強化を図った。また、毎月1回減点・査定減・返戻された内容を医局会に報告、医事課内でも毎月担当を決め報告・検討、異議のあるものには再審査を積極的に行い、収益増の取り組みと、課員のスキル向上を目指した。

<健診室>

- ① 受診者単価率のUPが出来るように、オプションの促進活動を行った。
- ② 繁忙期の受診月変更交渉を行い、閑散期への受診変更を勧め、健診受診0日を無くした。

【実績】

<医事課>

・ 減点 (円)

4月	273,050
5月	254,450
6月	400,930
7月	390,680
8月	114,440
9月	178,450
10月	193,790
11月	400,300
12月	374,710
1月	47,710
2月	170,510
3月	208,500

<健診室>

- ・ 売上実績 ¥56,512,332 予算の5,180万円より¥4,712,332の増収
受診人数も前年度より57名の増加

【教育】

研修

- 内容 「医事課職員のための実務習得コース」 大阪
「診療報酬請求事務の見直しと保険点数の請求漏れ対策」 大阪
「楽しく学ぶ！ 接遇対応セミナー～患者さんから選ばれる病院を目指して～」
ピアザ淡海
「未収金予防体制の構築・管理・回収の実務」 名古屋
医療経営フォーラム 2016「地域社会と医療介護政策・経営」 京都
「若年認知症の人と家族を医療と福祉が支える企業が支える」
守山駅前コミュニティーホール

【今後の課題】

<医事課>

- ① 診療報酬の算定漏れがないよう、電子カルテとのマスタの紐付け等や無駄な病院持ち出し分を減らす対策を、他部門との連携を図るなど課題があり、今後も継続する。
- ② 月1回の減点・返戻報告と勉強会を行い、職員の知識向上を実施する。
- ③ 減点率の増加に伴い、積極的に再審査をかけ収入増に努める。
- ④ 未収金に関しては定期的に患者さんに連絡をとり、回収率の向上を目指す。今後も継続して病院経営の収入が増えるよう、未収金対策について検討する。

<健診室>

- ① 消費税増税分による価格を見直し、地域との価格調整を行う。
- ② 企業、健保の新規開拓案を考え、実施する。
- ③ 二次健診の受診者を増やすため、結果表と一緒に外来担当医表を付けるようにする。

管理課

【スタッフ】

- ①常勤職員 7 名、非常勤職員 6 名 (H29. 3. 31 時点)
- ②平成 28 年度内に常勤職員 1 名退職

【目標】 ～ Positive Thinking ～

- ①ヴォーリズ記念病院の職員たる原点回帰と基本理念の実践。礼拝・ボランティア活動への積極参加。仕事は指示を待つだけでなく、積極的に自分から働き掛けていく。
- ②『4S』 = 整理・整頓・整然・清潔をモットーとし、院内全体の設備・備品・環境整備に注力。利用者に満足度の高い快適な療養環境を提供する。
- ③病院を支える屋台骨であることを認識し、誇りを持って仕事に取り組む。院内職員が快適に安心して働ける環境作り、“聖域”を設けず経費削減を行い、事業計画・予算達成に寄与する。
- ④常に問題意識を持って新しい発想、別角度から考察する習慣作りをする。今が『ベスト』ではなく、今は『ベター』だということを意識し、現状打破をする。現状維持は『現状後退』。

【活動報告】

- ①平成 29 年 5 月開所の看護小規模多機能型居宅介護『友愛の家ヴォーリズ』の準備のため、建築関係、銀行との折衝、備品の手配など大きく関わり、滞りなく進めることができた。
- ②介護育児休業法の改正に伴い、細かな修正点も含め就業規則を改定した。
- ③電力自由化に伴い、数社と交渉を行う。最終的に関西電力との交渉の末、里全体（老健センター・ケアハウスも含み）で 11%のコスト削減を実現した。
- ④職員のユニフォームレンタル化移行について、約半年をかけて各社と交渉を行う。部署ごとにユニフォームの希望・選定の調整を行い、10 月よりスタートさせることができた。

【実績】

①一般経費関係

(単位：円)

科目(経費)	平成27年度	平成28年度	増 減
職員被服費	2,269,804	5,622,917	3,353,113
通信運搬費	4,366,951	4,443,257	76,306
消耗品費	14,445,374	17,277,234	2,831,860
消耗器具備品費	5,736,679	9,861,757	4,125,078
水道光熱費	40,454,654	42,863,025	2,408,371
事務・図書印刷費	148,500	206,280	57,780
燃料費	13,921,010	10,594,603	▲3,326,407
修繕費	12,206,925	9,816,825	▲2,390,100
雑費	6,920,408	7,470,846	550,438
自動車費	603,462	678,064	74,602
器械賃借料	11,022,108	18,776,864	7,754,756
合 計	112,095,875	127,611,672	

②エネルギー関係

	平成 27 年度		平成 28 年度	
	使用量	金額 (円)	使用量	金額 (円)
電気 (病院本体)	1,806,149 (kwh)	35,993,107	1,928,367 (kwh)	37,422,831
上水道	16,666 (m ³)	4,086,637	16,237 (m ³)	3,972,617
下水道	8,093 (m ³)	1,510,380	7,953 (m ³)	1,412,550
灯油	130,000 (L)	8,074,080	86,000 (L)	5,188,320
L P G (ホスピス)	17,152 (m ³)	4,587,804	18,922 (m ³)	4,087,195
L P G (栄養科)	3,481 (m ³)	1,014,937	3,546 (m ³)	1,034,211
合 計		55,266,945		53,117,724

③SPD 在庫推移

(単位：千円)

	28/4月	5月	6月	7月	8月	9月
SPD 倉庫在庫合計	2,575	2,448	2,370	2,358	2,305	2,333
前年対比	▲6	▲212	36	▲353	50	▲353
部署在庫合計	3,504	3,438	3,428	3,326	3,388	3,336
前年対比	▲63	▲408	▲319	▲442	▲303	▲444
合計	6,079	5,886	5,799	5,684	5,694	5,669
前年対比	▲70	▲620	▲283	▲477	▲252	▲797
	28/10月	11月	12月	1月	2月	3月
SPD 倉庫在庫合計	2,112	2,113	2,541	2,003	1,818	2,111
前年対比	▲225	▲493	▲364	▲601	▲414	▲174
部署在庫合計	3,266	3,340	3,495	3,581	3,855	3,938
前年対比	▲535	▲204	▲70	▲85	271	471
合計	5,379	5,484	6,037	5,585	5,674	6,049
前年対比	▲806	▲697	▲435	▲687	▲142	▲296

昨年に引き続き、適正在庫管理強化に注力した。

④院内保育所における経費

(円)

	28/4月	5月	6月	7月	8月	9月
支払額	998,350	958,962	1,051,106	1,300,301	1,412,433	1,400,248
	28/10月	11月	12月	29/1月	2月	3月
支払額	1,498,034	1,562,518	1,197,832	1,381,329	1,557,774	1,662,926

(円)

	平成27年度	平成28年度	増減
年間支出合計	16,305,081	15,981,813	▲323,268
補助金計	▲2,634,000	▲2,311,000	▲323,000
年間保育料	▲2,778,850	▲3,021,402	242,552
差引	10,892,231	10,649,411	▲242,820

昨年度との経費比較では、ほぼ横ばいで安定している。補助金額の減少は、日曜・夜間の開所日が減ったため。しかし、昼間の預け入れをする職員数が増えたため、保育料は増加した。

【教育】

省エネ・防災・設備機器・財務経理等を中心に、研修やセミナーに参加した。

【今後の課題】

- ①借入金返済原資捻出及び賃金・設備投資の安定的原資確保、また次期投資の着実な履行により、職員が安心して働ける勤務職場環境の創出のため、引続き安定的財務基盤の構築を目指す。
- ②正確な出退勤の把握、事務作業の効率化に向けた勤怠管理システムの導入を検討していく。
- ③建物の劣化に伴う本館外壁の塗装、及び屋上防水加工処理の整備を行う。
- ④法改正および一般社会常識・時流に即した就業規則の変更を随時行っていく。
- ⑤院内保育所の保育料の見直し
- ⑥適正な経営資源の配分を従来以上に綿密に検証していく。適正人員配置、ワークライフバランスの観点からも時間外業務の削減、業務の効率化を進める。

地域医療課

【スタッフ】

MSW 4名

病診連携事務 1名

【目標】

地域包括ケアシステムの構築が求められている。当院においても、地域のニーズに即した病床編成が求められている。

地域連携に関しての院内・院外における活動の幅が広がっている。当院における地域の立ち位置を明確にし、地域医療構築に向け地域医療課の拡充を行い、院内外における連携強化を図りたい。地域に向け病院機能の周知、地域とのリンクができるよう活動の幅を広げ、患者満足の高い退院支援が行えるようチーム医療の一員として役割を果たす。

【活動報告】

- ① 地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟などの包括病棟における入退院調整を行う。目標稼働率に貢献できるようベッドコントローラー・病棟と連携する。
 - ・ 各スタッフが目標稼働率を意識し、入退院調整を行う事ができている。
 - ・ 今年度より在宅療養支援課が看護部に新設され、退院支援に向けての活動を行っている。地域医療課と協働し、患者支援センターとして入退院支援に関わっている。
 - ・ 前年度入院患者数に対しては全体入院数 974 名に対して、地域医療課経由での入院は 406 名であり全体の 41.6%である。月入院患者数の 40%程度が、地域医療課を通じて紹介入院となっている。
 - ・ 紹介に関しては、近江八幡市立総合医療センターが最も多く、全体の 69.2%を占めている。開業医、施設、県外病院などを除くと 75.4%である。
次いで、彦根市立病院や東近江総合医療センターなどの急性期病院である。能登川病院からの紹介件数も増えている。以前よりも紹介件数は伸びてきている。
- ② MSWとしての相談業務を通じて、患者・家族への支援を行う。
 - ・ 患者、家族のニーズに配慮し、各MSWがケース対応できている。
- ③ 地域におけるニーズの発掘と連携機能の充実を図る。
 - ・ 病院協会での退院支援事業、三方よし研究会、つながりネットなど地域や病院や施設とも連絡を取り合い情報交換ができている。得た情報を院内に提供していく事もできた。

- ④ 先方病院への支援を強化する。
- ・ 近江八幡市立総合医療センターとの連携を引き続き行なう。圏域内だけでなく、圏域外の病院とも密な連携が図れるよう調整している。
- ⑤ 診療報酬伴う対応に関して
- ・ 前年度に引き続き、地域医療課として算定できる項目（退院支援加算や介護支援連携指導料など）に関しては算定漏れの無いよう意識している。
- ⑥ 病診連携機能の充実
- ・ 開業医との連携に関してはスムーズな検査・診察調整を行う事ができている。ヴォーリズ記念病院との有益な連携が図れるよう情報収集に努めていく。
 - ・ びわこネットに関しては導入が促進され、対応件数が増えている。

【実績】

H28 年度 実績	入院患者数	全体入院割合	退院支援計画書 作成数	介護支援連携 計画書
4 月	31	37.80%	19	3
5 月	34	38.20%	35	5
6 月	36	40.00%	32	5
7 月	28	37.33%	19	5
8 月	41	47.12%	9	3
9 月	31	42.46%	32	8
10 月	32	34.40%	43	4
11 月	33	41.77%	27	5
12 月	39	47.56%	49	6
1 月	36	45.56%	41	4
2 月	33	44.00%	50	7
3 月	32	45.71%	47	8

【教育】

自己研鑽を行い連携と相談業務の質を高める。

- ・ 研修会の参加を行い自己研鑽に努めた。
- ・ 症例発表や学会発表などに関しては、取り組んでいく余裕がなかった。
- ・ 資格取得を行い各自のスキルアップに努めることも継続していく課題である。

【今後の課題】

- ・ 外来予約件数に関しては、96件である。前年度の130件に比べると34件減少している。
- ・ 緩和ケア外来に関しては、前年度205件に対して今年度は199件となっている。近江八幡市立総合医療センターよりの紹介は79件→87件と増えている。平均在院日数が10年前の開設時に比べると10日程度短くなっている。また、入院期間も数日となるケースや三ヶ月以上となるケースが多く、二極化しており、緩和ケアの理解・周知が必要である。

患者動向に関して

- ・ 東近江医療圏における地域完結率は高度急性期 68.2%、急性期 73.0%、回復期 75.2%、慢性期 80.8%である。他の圏域と比べると平均的に地域完結率は高い。
- ・ 高度急性期においては各圏域で基幹病院があるため、流入は少ない。
- ・ 急性期、回復期においては湖東圏域から東近江圏域への流出が多い。また、東近江圏域からも大津・湖南・甲賀圏域への流出が起こっている。
- ・ 慢性期に関しては、湖東・湖南からの流入が多い、湖北・湖東圏域の慢性期患者は受け皿の不足から湖東・東近江に流出している。
- ・ 医療機関別許可病床数を見ても、湖北・湖東圏域の慢性期病床数は東近江医療圏が820床であるのに対して、湖東245床、湖北109床と半数以下であることが要因であると考えられる。
- ・ 疾病別での地域完結率は東近江圏域では、心筋梗塞・脳卒中・肺炎・骨折・外傷に関しては平均で80%を越えているが、ガンに関しては平均で56%と他の圏域に比べても低い。他院からの紹介に関しては、近江八幡市立総合医療センターを中心として東近江圏域やそれ以外の地域からもある。
- ・ 地域医療の充実を図るため、近江八幡市立総合医療センターとの連携に関しては特に重要になる。当院における地域での立ち位置を明確にし、地域医療構築に向け、院内外における連携強化を図りたい。
- ・ 東近江医療圏における当院の立ち位置をより明確化し、里としての機能を活かし有用な連携ができる体制作りが必要であると考ええる。

システム室

【スタッフ】

常勤 1名

【目標】

- ① 院内システムを常に正常利用可能にさせるため、ネットワーク全体を安定稼働させる。
- ② 情報システムに関する知識や技能のレベルアップを図るために、職員へのシステム関連情報の配信を積極的に進めていく。
- ③ 院内の情報システム・ツールを最大限活用しながら、情報共有・情報配信を促進させる。
- ④ 電子カルテシステムの次期更新に向けての課題を明確にし、次期更新の方針、重点項目、スケジュールを明確化する。

【活動報告】

- ① 院内ネットワークを安定稼働させるため、不安定なネットワーク機器を更新し、常時運用可能にした。
- ② 停電時、栄養科、ホスピス、MRI 室がネットワーク停止してしまっていたところ、非常用電源を確保することで、常に稼働なネットワークを実現した。
- ③ 院内システム使用時の注意点を明確化させ、職員全員が深刻なシステムトラブル発生時でも迅速な対応ができるようにした。
- ④ トラブル続きだった看護システムを入れ替え、安定稼働を図った。
- ⑤ 次年度電子カルテリプレイスに向け、他社メーカーとの比較、部門別のプレゼンを実施し、方向性決定への準備を行った。
- ⑥ トラブル発生時でも迅速に対応ができるように、インターネット系ネットワークの配線図を作成

【今後の課題】

- ① 電子カルテリプレイスの実施
プロジェクトチームを立ち上げ、電子カルテリプレイスを滞りなく実行させる。
- ② 院内ネットワークの安定化
不安定なネットワーク機器を更新することで、常に安定稼働させる。
- ③ 情報セキュリティの強化
マルウェア対策、ウィルス対策、情報漏洩対策の更なる強化を図り、安心して利用できる環境を構築する。

在宅サービス部門

【H28 年度活動計画及び実績】

在宅サービス部門は、職員の定着率が100%でその上新入職員も4名確保することができた。経常利益は3事業所全体で約5,596千円(予算よりは△約1,858千円)の黒字決算となった。今年度は、近江八幡市の地域密着型事業である「看護小規模多機能型居宅介護(看多機)」の開設準備に追われ、人も時間も多大に要してしまったことが減収の要因である。

しかし、県内でも大規模の在宅サービス部門となってきたおり、行政や各種職能団体等からの講演依頼や役員等にも選んでいただき、地域に向けての貢献度は上がってきていると思われる。

利用者状況は、3事業所とも、がんのターミナルの方々や認知症、独居の方々も後を絶たずの状況である。さらに、在宅看取りのケースも増え始め、住民の死生観の醸成と在宅医をはじめとする在宅療養支援チーム(他職種)の連携の充実と、地域包括ケアシステムの構築が益々進みつつあると思われる。

訪問看護ステーションは、次年度の新事業である「看多機」のために所長交替をはじめ、スタッフの異動に伴う利用者受け入れの制限をしなければならず、看護師の補充ができたものの下半期は収益減となってしまった。しかし、スタッフの協力のおかげで、医療保険制度での「機能強化型訪問看護管理療養費1」と、介護保険制度での「看護体制強化加算」の取得継続はできていた。ホームヘルパーステーションは、介護福祉士が86%を占め、痰の吸引等の手技取得者が4名となり、「特定事業所加算1」の取得継続ができています。居宅介護支援事業所は、主任介護支援専門員が84%で、175件/月をキープしながら地域活動へも参画できています。今年度は、次年度に異動もあるため1名増員している。介護予防拠点事業については、例年通り法人全体の協力を得ながら展開し多くの方の参加ができていた。

【H29 年度の課題】

県内で5番目、東近江圏内で初めての事業である「看多機」の開設と地域に根ざした在宅支援の「核」となっていけるよう、よりスピーディで希望に応じたケアの提供を継続していきたい。また、利用者のご家族への支援にも力を惜しまず、地域の方をはじめ各関係機関との連携を密にしながら、「地域包括ケアシステム」の構築に協力し、「ヴォーリズグループ」が高く評価していただけるよう努めていきたい。そのためには、これからも職員の確保及び定着率の維持と人材育成(教育)に対する努力を続けていきたい。そして、在宅サービス部門全体が組織としてより確立していきたいと考える。

訪問看護ステーション ヴォーリス

【スタッフ】

管理者(正看護師)1名、在宅看護専門看護師1名(非常勤)
正看護師18名(常勤9名、非常勤9名)、理学療法士4名(非常勤)
事務職員2名(常勤1名、非常勤1名)

【目標】

- ① 「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、「里」、「病院」、「老健」、「ケアハウス」、「在宅」が同じ方向に進むよう協力・連携し、里内の機能を充分発揮できるようにしながら、より地域から信頼される訪問看護を目指す。
- ② 年齢を問わず医療依存度の高い重症ケースや難病等の困難ケースに積極的に対応できるよう体制を整え、満足していただける質の高い訪問看護を目指す。
- ③ 「機能強化型訪問看護管理療養費1」の取得を維持できるよう癌末期に限定されない在宅ターミナルケアを積極的に受け入れ、最期までその人らしい生活を支援していく。また、亡くなられた方のご家族のグリーフケアにも努める。
- ④ 職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。
- ⑤ 法人の経営方針に沿い、収益の向上と経営の安定化を目指す。

【活動報告】

常勤看護師2名(4月から)と非常勤看護師1名(7月から)の増員があり、看護師の常勤換算は14.6名となり昨年度より+2.8名となった。事務職員も非常勤で増員し業務分担が出来た。訪問件数は11,766件で昨年度と比較して+1,453件となった。また、在宅看取りも22件で、がんや老衰のターミナルの方に対応することが出来、医療保険では「機能強化型訪問看護管理療養費1」の取得と、介護保険では「看護体制強化加算」の取得を継続することができ経常利益は6,514千円となった。

看護小規模多機能型居宅介護立ち上げ準備のため、研修等を積み重ね、設立準備を行った。

在宅看護専門看護師を中心に実習生の受け入れや講演活動、スタッフ育成に取り組み、訪問看護の質の向上と人材育成に積極的に取り組んだ。

【実績】

①訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医保	294	309	304	384	443	477	449	398	450	357	426	447	4738
介保	502	519	593	611	593	608	600	646	616	575	578	614	7055

②訪問件数比率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医保	37	37	34	39	43	44	43	38	42	38	42	44	40
介保	63	63	66	61	57	56	57	62	58	62	58	56	60

訪問件数(医療・介護保険)比率は、ほとんどが4:6(普通は2:8くらい)、介護保険の方が多く重症度も高かった。前年度に比べ、介護保険での訪問は+600件、医療保険では+約870件となっている。24時間コール体制で運営しているが、20~50件/月、緊急出動している。また、癌疾患の他ターミナル期の方は月平均23名と昨年と変わらず、在宅看取りは年間22名であった。併設のヴォーリス記念病院からの指示書は30%で、新規利用者の38%はヴォーリス記念病院の患者であった。

【教育】

院内の研修はもちろんのこと、「小児訪問看護研修」「認知症研修」「実習指導者研修」「在宅ターミナルケア」「保険請求業務」「人材育成」「訪問看護管理者研修」等、専門分野の研修会に数多く参加し、知識・技術の向上に努めることができた。また、「E L N E C-J コアカリキュラム」の研修にも参加し、エンド・オブ・ライフケアの知識を深めることができた。また、介護職員の喀痰吸引等の指導看護師養成講習会に今年度も1名参加し、資格を取得した。

教育面に関しては、看護学校等への講義や実習生の受け入れを増やし、新入職員に対する同行訪問や面接などを通して「訪問看護の魅力」を伝えられるようにしてきた。また、様々な講演会でのシンポジストや講師等も引き受けながら、地域事業への参画にも努めてきた。

【今後の課題】

新事業開始に伴いスタッフが異動したこともあり、スタッフ数は減少している。そのため訪問件数も減少し、医療保険制度での「機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰ又はⅡ」介護保険では「看護体制強化加算」取得継続が難しくなると思われる。人材確保と同時にスタッフのモチベーションを維持しつつ、各自がやりがいをもって業務に取り組めるような環境づくりをしていく。

また療養者やそのご家族に対し「最期まで我が家で暮らしたい。」という思いに応えるべく、できる限りスピーディで希望に応じた支援をしていきたい。そして、地域から選ばれる「ヴォーリズの訪問看護」として、誇りを持って質の高いサービスを提供していきたい。

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

【スタッフ】

常勤介護従事者 4 名

うち管理者 1 名（サービス提供責任者・介護従事者兼務）、

サービス提供責任者 2 名（介護従事者兼務）、 事務職員 1 名（介護従事者兼務）

非常勤介護従事者 6 名

非常勤事務職員 1 名

	常 勤	非常勤	資 格 等
管理者	1 名 (サービス提供責任者兼務)		介護福祉士
サービス提供責任者	2 名		介護福祉士
介護従事者	0 名	6 名	介護福祉士・介護基礎研修修了者 実務者研修修了者修了者
事務職員	1 名 (介護従事者兼務)	1 名	介護福祉士

【目標】

- ① 喀痰吸引等ができるヘルパーが 4 名になり、重症ケースにも引き続き対応し、収益に繋げる。
- ② 在宅ヘルパーを希望する人材育成に力を入れ、住み慣れた地域で最期まで暮らせるようにする。
- ③ 働きやすい職場をめざすとともに、安全運転や職員の健康管理にも留意しながら勤務体制を整える。

【活動報告】

平成 28 年度は、「特定事業所加算 I」を継続していく方向で動き出した。喀痰吸引の出来るヘルパー4 名が対応できる重症の利用者や、障がいの利用者は増えてきている。次年度も喀痰吸引等の手技習得のための研修に 3 名追加予定している。

【実績】

訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護 保険	796	826	894	923	1002	1096	1098	1194	945	815	925	1135	11645
障が い者 支援	143	172	211	165	167	146	102	105	144	121	131	124	1731

介護保険の初回加算は 69 件とお断りすることなく引き受け、前年より 18 件増ですが、重度の利用者が増え、数回の訪問で終了になるケースが多くなっています。介護保険での訪問は、前年と変わりなく（+84 件）、引き続き「特定事業所加算Ⅰ」を取っていき重症の利用者にも対応していく。

【教育】

ヴォーリズ記念病院の職員として院内の研修には、全員が参加することができた。

外部研修については経験年数に応じ、階層別研修・専門分野研修等に積極的な参加を促進した。また、二級ヘルパー習得者が県の補助金制度を利用し実務者研修を終了するなど事業所として協力ができた。

【今後の課題】

訪問従事者 11 名中 9 名が介護福祉士資格を習得し、内 4 名が喀痰吸引等のできるヘルパーとして登録し、重症の利用者に対応してきた。今後も継続して研鑽を重ね、地域から信頼される事業所を目指し、努力をしていきたい。引き続き事業所加算Ⅰを習得し、重症の利用者に対応できる事業所とし、医療依存度の高い人でも最期までご自宅での生活が送れるよう支援する事業所として特色づけていきたいと考えている。

居宅介護支援事業所

【スタッフ】

管理者(主任介護支援専門員)1名 介護支援専門員 5名(内主任介護支援専門員 3名)
事務員 1名(非常勤)

【目標】

1. W・M ヴォーリズの創立精神を継承し、「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、利用者の在宅における生活の質の向上を目指しケアプラン作成に取り組む。
2. 里の連携を強化し、地域の各機関との連携にも努め、介護保険制度に基づいた適正な介護サービスを提供する。
3. 事業所内の協力を深め、個々の能力を高め、質の高いサービスを目指し、事業運営の安定を図る。

【活動報告】

新規利用者 71 名を受け入れることができた。その内訳として、在宅 30 名、ヴォーリズ関連施設 22 名、包括支援センター10 名、他施設 4 名、他医療機関 5 名であった。今年度は、看多機設立に向けて 12 月より介護支援専門員 1 名増員の 6 名体制で運営し、皆の協働のもと、特定事業所集中減算に該当もなく、最終的に安定した運営ができた。また、介護支援専門員の合格者の実習の受入れや、行政からの依頼で、地域ケア会議での事例提供や高齢者虐待検討会の委員として出席し、特定事業所としての役割を果たせるよう努めた。

【実績】 月別利用者数(給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者人数	161	173	173	180	171	174	178	173	175	177	184	187	175

【教育】

院内研修はもちろんのこと、外部研修にも積極的に参加できるようにし、主に主任介護支援専門員の研修や、難病・看取り・多種職連携に関する研修、個々のスキルに基づいた階層別研修等に参加し、個々のスキルアップに努めた。

【今後の課題】

平成 29 年度も引き続き看多機への異動や行政からの依頼を含めた様々な役割を確実に担えるよう、教育・育成に力を入れ、事業所全体のレベルアップを図りながら、H30 年度の介護保険・診療報酬同時改定に向けて情報収集を行い、信頼優先に適正なケアプラン作成と連携に努めたい。

介護予防拠点事業 いきいきサロンヴォーリス

アンドリュース記念館を介護予防事業の拠点として、平成19年から介護予防教室、ゴムバンド体操教室、歌声サロン等の活動を概ね週1回程度の開催から行なってきた。地域からの高齢者が気軽に集える場所として、また活動を通して介護予防の目的も達している。今後も主として在宅サービス部門が担当し、公益財団本部・病院・老健と協働し、地域貢献事業として継続していく。平成28年度は、以下の事業を展開した。

○介護予防教室 テーマ:『認知症の予防』

	内容	担当・講師	参加数
5月	「身体を動かして認知症を吹っ飛ばそう」	メディカル・フィットネスセンターヴォーリス トレーナー 田辺 彰太 氏	26名
7月	「折り紙教室 PART VI」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	21名
9月	「認知症になってもその人らしい生き方を支える」	訪問看護ステーションヴォーリス 在宅看護専門看護師 田村 恵 氏	22名
11月	「認知症の予防（運動編）」	ヴォーリス記念病院 作業療法士 宮本 優子 氏	21名
2月	「折り紙教室 PART VII」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	18名
合計			108名

○歌声サロン

	参加人数
4月	43名
5月	21名
6月	33名
7月	29名
9月	21名
10月	30名
11月	17名
12月	21名
1月	23名
2月	19名
3月	23名
合計	280名

○ゴムバンド体操教室（毎週月曜日）

	回数	参加人数
4月	4回	30名
5月	4回	38名
6月	4回	33名
7月	3回	24名
9月	3回	19名
10月	4回	26名
11月	4回	29名
12月	3回	25名
1月	2回	12名
2月	5回	28名
3月	3回	29名
合計	39回	293名

礼拝堂

【スタッフ】

チャプレン1名（常勤）

1 礼拝堂

- ① 始業礼拝が定着。礼拝を持って新たな月が始まることの意識が増してきた。
- ② 病床訪問について関係性を築く働きなど意識した。
- ③ ミュージックタイムは毎月実施できた。演奏者も定着

2 全体まとめ

- ① 秋季追悼会の参加者は例年に比べ少なかった。なお、内容について病院として定着してきた。病院全体への呼びかけはまだ不十分だが看護部以外の診療技術部などの参加を期待したい。
委員会主催の行事ではあるが、参加を呼びかけるもスタッフの参加は勤務体制もあり難しいのが現状。院長、理事長の出席は大きな意味を持つ。
- ② 新人オリエンテーションを担当。フォローアップが課題
フォローアップについて具体的な方策、企画ができなかった。中途入職者が多い中で一体感を持つことは難しい。現状にあったフォローアップの企画が必要
- ③ 祈りの場
病棟（1, 3, ホスピス）各種委員会に於いての「祈り」の機会を増やした。
目に見える評価ではないが、スタッフの一体感、支えとして浸透を計りたい。

3 総括

- ① 始業礼拝、祈りを通して病院の「理念」を浸透したいと願い、その役割を担っている。事業、経営などの観点から見過ごしにならないよう、時に、厳しい視点からのメッセージも必要であると認識している。
- ② 特別な働きとしては100周年に向けて記念誌の発刊作業に関わり、「伝道」の総括を執筆。また歴史を継承するうえで他の委員と協力しつつ、また職員への啓蒙を意識した。当院設立「理念」を尊ぶことを大切にしたい。

診療情報管理室

【スタッフ】

診療情報管理士 (2名)

【目標】

- ① 電子カルテ運用の効率化に継続的に取り組む。
- ② 医療の質の向上に努める。
- ③ 病院経営指標（機能性指標）の分析作成に努める。
- ④ 全国がん登録業務の遂行

【活動報告】

- ① 開示等 5 件
裁判関係資料…3 件、警察関係…2 件
- ② 電子保存の 3 原則を遵守し使用・入力しやすい電子カルテ操作書の作成を行った。
同意書の電子カルテ入力作成、検査オーダーのひも付等
- ③ 診療記録の監査（内部監査施行）実施
- ④ 病棟別、医師別、平均在院日数、病床回転数、病床利用率、外来入院患者数比率などの統計を毎月行った。

【実績】

- ① 2010 年～2040 年 将来推計人口 作成
- ② 2010 年～2040 年 医療介護需要予測指数（全国平均及び東近江医療圏） 作成
- ③ 全国がん登録業務
平成 28 年 1 月から 12 月までの登録数 … 152 件

【教育】

平成 28 年度 第 42 回日本診療情報管理学会学術大会（2016 年 10 月 12 日～14 日）

【今後の課題】

診療記録監査を毎年、同僚評価にて行っているが、第三者評価での診療記録監査を行いたいと考える。

2016年(H28年1月~12月) 疾病別 年齢階層別 性別 退院患者数

ICD大分類		合計	0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~	平均年齢	
I	感染症及び寄生虫症	男	11	0	0	0	1	0	0	1	1	1	4	1	2	79.5
		女	27	0	0	0	1	2	3	5	3	2	4	2	5	71.6
		合計	38	0	0	0	2	2	3	6	4	3	8	3	7	
II	新生物	男	128	0	0	0	0	1	8	25	17	28	18	22	9	75.9
		女	98	0	0	0	2	4	8	19	15	16	13	7	14	73.7
		合計	226	0	0	0	2	5	16	44	32	44	31	29	23	
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	86.0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	82.0
		合計	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	
IV	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	15	0	0	0	0	0	0	1	4	4	2	1	3	79.6
		女	27	0	0	0	0	0	1	1	1	2	8	5	9	84.4
		合計	42	0	0	0	0	0	1	2	5	6	10	6	12	
V	精神及び行動の障害	男	5	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	75.4
		女	6	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	2	73.8
		合計	11	0	0	0	0	1	1	2	1	1	1	1	3	
VI	神経系の疾患	男	16	0	0	0	0	0	0	1	3	5	5	2	0	78.4
		女	27	0	0	0	0	0	0	8	2	2	4	4	7	78.9
		合計	43	0	0	0	0	0	0	9	5	7	9	6	7	
VII	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0
		合計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
VIII	耳及び乳様突起の疾患	男	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	74.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
IX	循環器系の疾患	男	90	0	0	0	2	3	7	16	16	15	9	11	11	73.8
		女	100	0	0	0	0	3	5	9	7	14	14	23	25	81.0
		合計	190	0	0	0	2	6	12	25	23	29	23	34	36	
X	呼吸器系の疾患	男	74	0	0	0	0	0	0	6	10	9	15	23	11	81.8
		女	45	0	0	0	0	0	0	5	1	4	5	10	20	85.5
		合計	119	0	0	0	0	0	0	11	11	13	20	33	31	
X I	消化器系の疾患	男	53	0	0	0	1	2	6	6	6	11	11	9	1	72.9
		女	37	0	0	0	0	4	2	1	2	0	12	2	14	81.1
		合計	90	0	0	0	1	6	8	7	8	11	23	11	15	
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	男	4	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	64.3
		女	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	77.4
		合計	9	0	0	0	2	0	0	1	1	0	1	3	1	
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	18	0	0	0	0	2	0	1	1	2	4	4	4	78.7
		女	20	0	0	0	0	1	1	2	0	5	6	2	3	78.1
		合計	38	0	0	0	0	3	1	3	1	7	10	6	7	
X IV	腎尿路性器系の疾患	男	11	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	1	3	84.0
		女	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	2	85.5
		合計	17	0	0	0	0	0	0	0	2	1	7	2	5	
X V	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VI	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	10	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	3	2	78.8
		女	18	0	0	0	0	0	0	2	4	1	2	4	5	82.3
		合計	28	0	0	0	0	0	2	2	5	2	3	7	7	
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	51	0	0	0	0	1	3	4	2	12	14	6	9	79.5
		女	105	0	0	1	0	0	2	4	5	11	32	21	29	83.4
		合計	156	0	0	1	0	1	5	8	7	23	46	27	38	
X X	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数			1014	0	0	1	9	24	49	120	108	147	192	170	194	

2016年(H28年1月～12月) 疾病別 在院期間別 性別 退院患者数

ICD大分類		合計	1～7	8～14	15～21	22～30	31～60	61～90	3月～6月	6月～1年	1年～2年	2年～	3年～	平均 在院日数	
I	感染症及び寄生虫症	男	11	3	1	1	1	1	0	2	2	0	0	0	78.4
		女	27	7	7	1	3	2	4	1	1	1	0	0	56.9
		合計	38	10	8	2	4	3	4	3	3	1	0	0	
II	新生物	男	128	40	29	14	13	21	4	5	1	1	0	0	28.3
		女	98	23	21	10	10	24	7	2	1	0	0	0	27.5
		合計	226	63	50	24	23	45	11	7	2	1	0	0	
III	血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	32.0
		女	4	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	47.3
		合計	5	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	
IV	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	15	1	3	5	2	2	0	1	0	0	0	1	83.5
		女	27	6	2	6	4	4	2	1	1	1	0	0	52.9
		合計	42	7	5	11	6	6	2	2	1	1	0	1	
V	精神及び行動の障害	男	5	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	91.2
		女	6	1	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	30.2
		合計	11	2	2	1	2	2	1	0	0	1	0	0	
VI	神経系の疾患	男	16	2	4	1	1	2	1	2	1	1	1	0	112.1
		女	27	3	3	2	3	7	6	0	1	1	1	0	84.6
		合計	43	5	7	3	4	9	7	2	2	2	2	0	
VII	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
VIII	耳及び乳様突起の疾患	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	28.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
IX	循環器系の疾患	男	90	16	8	8	6	10	8	29	5	0	0	0	73.8
		女	100	19	11	7	5	12	13	28	0	1	2	2	106.3
		合計	190	35	19	15	11	22	21	57	5	1	2	2	
X	呼吸器系の疾患	男	74	11	10	12	8	13	10	8	0	2	0	0	52.6
		女	45	5	10	7	3	11	3	3	2	0	1	0	68.6
		合計	119	16	20	19	11	24	13	11	2	2	1	0	
X I	消化器系の疾患	男	53	24	10	10	3	2	2	2	0	0	0	0	18.2
		女	37	10	5	5	2	6	8	1	0	0	0	0	32.7
		合計	90	34	15	15	5	8	10	3	0	0	0	0	
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	男	4	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	15.5
		女	5	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	308.6
		合計	9	1	2	2	2	0	0	0	0	1	0	1	
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	18	2	1	3	2	4	5	0	1	0	0	0	47.8
		女	20	4	0	0	2	7	5	2	0	0	0	0	49.4
		合計	38	6	1	3	4	11	10	2	1	0	0	0	
X IV	腎尿路器系の疾患	男	11	2	4	3	1	0	0	0	0	0	1	0	15.0
		女	6	0	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	43.8
		合計	17	2	5	5	1	1	2	0	0	0	1	0	
X V	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VI	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類されないもの	男	10	1	2	1	2	1	0	0	1	1	1	0	151.5
		女	18	1	1	1	3	4	4	1	3	0	0	0	94.4
		合計	28	2	3	2	5	5	4	1	4	1	1	0	
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	51	8	2	3	4	12	17	5	0	0	0	0	51.9
		女	105	4	1	6	11	30	42	7	2	1	1	0	71.6
		合計	156	12	3	9	15	42	59	12	2	1	1	0	
X X	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数			1014	197	140	112	94	180	144	101	22	12	8	4	

2016年(H28年1月～12月)

診察圏別 診療科別 退院患者数

		全科	内科	循環器科	呼吸器科	外科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	リハビリ
東近江	近江八幡市	787	53	4	79	275	65	87	115	109
	蒲生郡	41	5		2	17	6	2	6	3
	東近江市	116	3		10	26	19	6	40	12
大津	大津市	7			1			1	5	
湖南	草津市	3							3	
	栗東市	2							2	
	守山市	1							1	
	野洲市	19	1		3	4	1		10	
甲賀	湖南市	1							1	
	甲賀市	0								
湖東	彦根市	22	2		1	6	3		5	5
	愛知郡	4				1			3	
	犬上郡	3				1	1		1	
湖北	長浜市	1								1
	米原市	0								
湖西	高島市	1							1	
他府県		6			1		1	1	2	1
不明		0								
総数		1014	64	4	97	330	96	97	195	131

2016年(H28年1月～12月)

診察圏別 診療科別 退院患者数(近江八幡市・蒲生郡)

		全科	内科	循環器科	呼吸器科	外科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	リハビリ
近江八幡市	八幡学区	218	14		21	81	12	24	35	31
	島学区	38	2		4	13	6	10	2	1
	岡山学区	91	8		16	34	9	9	5	10
	金田学区	108	5	2	17	34	5	8	17	20
	桐原学区	108	4	1	9	36	13	10	21	14
	馬渕学区	47	4		1	17	5	2	10	8
	北里学区	36	3	1	2	11	2	3	6	8
	武佐学区	44	6		1	15	3	7	5	7
	安土学区	80	5		9	31	7	14	8	6
老蘇学区	19	2		1	3	3		6	4	
近江八幡市 総数		789	53	4	81	275	65	87	115	109
蒲生郡	竜王町	36	5		1	15	5	2	5	3
	日野町	5			1	2	1		1	
	蒲生町	0								
蒲生郡 総数		41	5	0	2	17	6	2	6	3
合計		830	58	4	83	292	71	89	121	112

経営企画室

【スタッフ】

常勤職員 2 名

【目標】

- ・診療や経営に関するデータを分析・検討し、病院の運営方針、経営戦略などの意思決定を行うための情報発信や企画立案を行う。
- ・地域への発信力を強化するために広報活動の充実と地域との関わり・協働を図る。
- ・地域連携の推進（病病・病診）を進め、健全経営に寄与する。また、平成 30 年度ダブル改定に備え、方向性を具体化する。
- ・病院各職種の要員確保をするために年間計画を立案し、特に看護・介護職のリクルート活動を継続する。各地域別・各学校別に今後の方針を見極める。

私達は、現場の声にしっかりと耳を傾け、現場の立場で考え、「こんな状況です。」とデータを示すだけではなく、「この状況をどうやって改善していきましょうか。」と一緒に悩み、一緒に改善策を探っていくことを大切にします。“単に情報を集める部署ではなく、情報を戦略へと創造し、健全経営に寄与する部署となる”ことを目指します。

【活動報告】

- ・退院支援加算 2→1、回復期リハビリテーション病棟入院料の 2→1 へのランクアップ、認知症ケア加算 2 の取得、療養病棟における在宅復帰強化加算の取得に向け、届出まで関わった。
- ・経営戦略会議では 10 月より進行役を務め、議題に沿った資料作成を行った。ホスピスの稼働率向上に向けた企画立案、上期の予算進捗状況における大幅な人件費増大に対する分析を行った。
- ・病床管理ミーティングを企画した。参加者は理事長、院長、看護部長、事務長、MSW、経営企画室。月・水・木・金曜日の午前 8：30～8：35 に週単位の入退院予定を確認し、1 日の行動計画を確認する。入院待機患者のトリアージや各病棟における経営管理に必要なデータ確認を実施
- ・要員確保に向け業者タイアップ型の求人サイトの更新。リクルート活動を精力的に行い病院見学会を開催した。
- ・ホスピス 10 周年記念講演会の運営に関わった。また、次年度、病院 100 周年に向けて、記念史編纂委員会に参加
- ・地域医療懇談会の開催（地域の開業医との懇談会）、安心カード、長期休暇時の往診対応等、地域の開業医との連携の充実・推進のため、関連各部署と連携し取り組んだ。

- ・ユニフォーム変更に伴い看護部募集パンフレット作製に関わった。
- ・病院ホームページへ院内のお知らせを適時アップした。
- ・地域への出前講座の推進役になった。

【実績】

- 7/30（土） 病院見学会の実施。（参加者 4 名）
対象：看護師有資格者・看護学生・看護学校入学希望者
 - 9/28（水） 医療懇談会の開催（参加開業医 7 医院）
内容：「看護小規模多機能型居宅介護について」
「地域包括ケアシステムにおける患者支援センターの機能について」
 - 10/23（日）「ヴォーリス記念病院ホスピス希望館 10 周年記念講演会」参画
 - 3/1 より回復期リハビリテーション病棟 1 へランクアップ
 - 平成 28 年度「出前講座」の実施（計 13 回、参加者：291 名）
依頼地域：近江八幡学区 5 か所、安土学区 5 か所、武佐学区 1 か所、
東近江市 2 か所
院内講師：10 名
（医師、看護師、理学・作業療法士、管理栄養士、訪問看護師、等）
 - リクルート活動
＜県内＞
 - ・訪問 … 高等学校 10 校、 専門学校 7 校、 大学 3 校
 - ・修学金説明会（専門学校 2 校）
 - ・病院説明会（大学 2 校）
 - ・滋賀県看護協会主催「看護職員就職説明会」（7/24、2/15）
 - ・「福祉のお仕事」就職フェア（7/3・3/6）
 - ・「企業と高等学校等進路担当教諭を対象とした情報交換会」（5/30）
 - ＜県外＞
 - ・訪問 … 京都府（専門学校 5 校）・沖縄県（高等学校 8 校、専門学校 1 校）
長崎県（高等学校 3 校） ・鹿児島県（専門学校 2 校）
 - ・病院説明会 … 鹿児島県（高等学校 1 件）
沖縄県（高等学校 1 件、専門学校各 1 件）
 - ＜業者主催「合同就職説明会」＞
 - ・福岡会場（面談学生 29 名）
 - ・沖縄会場（面談学生 43 名）
- *修学生制度の利用や就職に繋げることができた。

【教育】

＜院外研修＞

- ・2016年診療報酬改定詳細解説と2018年医療・介護同時改定に対応した経営戦略（4/16）
- ・地域医療構想セミナー（7/5）
- ・第15回 医業経営経済研究会（7/28）
- ・平成28年度第2回医事研究会（10/13）
- ・近江八幡市安寧のまちづくりプロジェクト研究会（12/21）
- ・適時調査対策 経営戦略セミナー（2/22）
- ・診療所を中心とした地域医療経営人材育成プログラムに参加
（1/14・1/19・1/21・1/22・1/29・2/2・2/5・2/9・2/14・2/16・
2/21・2/22・2/23・2/28）

医療経営に関わる各種研修やセミナーに参加した。

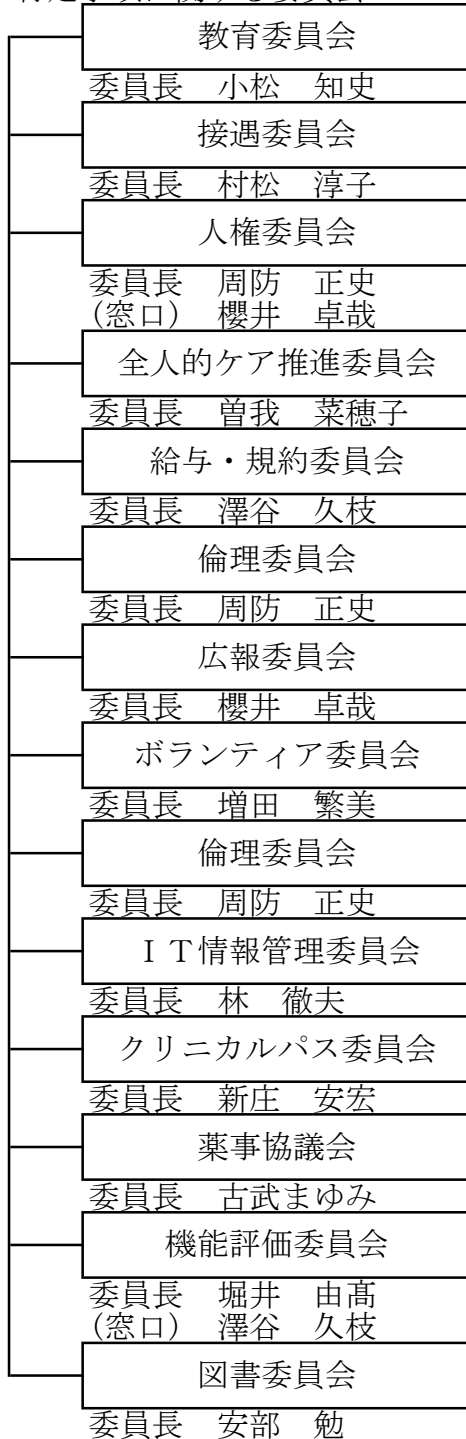
【今後の課題】

- ・引き続き、各種医療情報の収集及び提案する基盤となる室の立ち位置を再確認し、業務の整備を進める。
- ・別館老朽化に伴う新病院建設に向けた中長期計画への提言や策定事務業務
- ・予算書の作成と予算進捗管理
- ・人件費増大に伴う経費削減計画を作成
- ・法人全体のランドデザイン作成に参画する。
- ・次世代に向けての人材確保。計画に基づいたリクルート活動を行い、要員確保に向けて中長期のリクルート計画表を作成し遂行していかなければならない。
- ・地域に向けての広報活動の充実

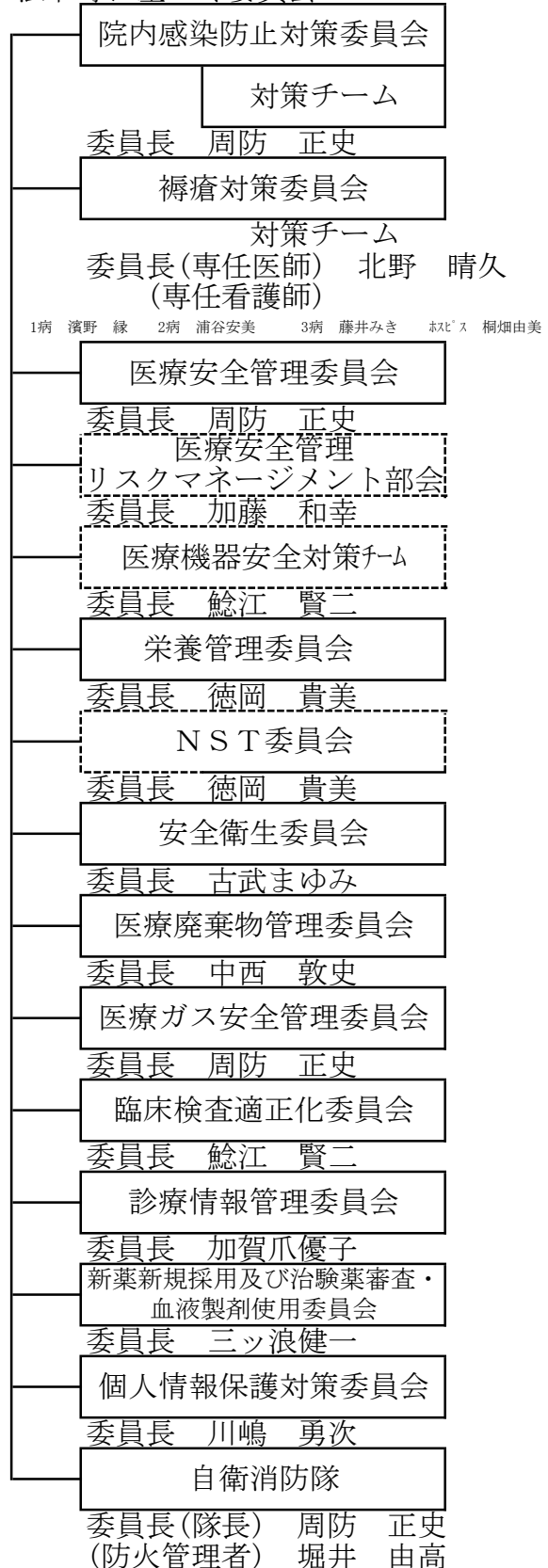
委員会報告

会議・委員会組織図

特定事項に関する委員会

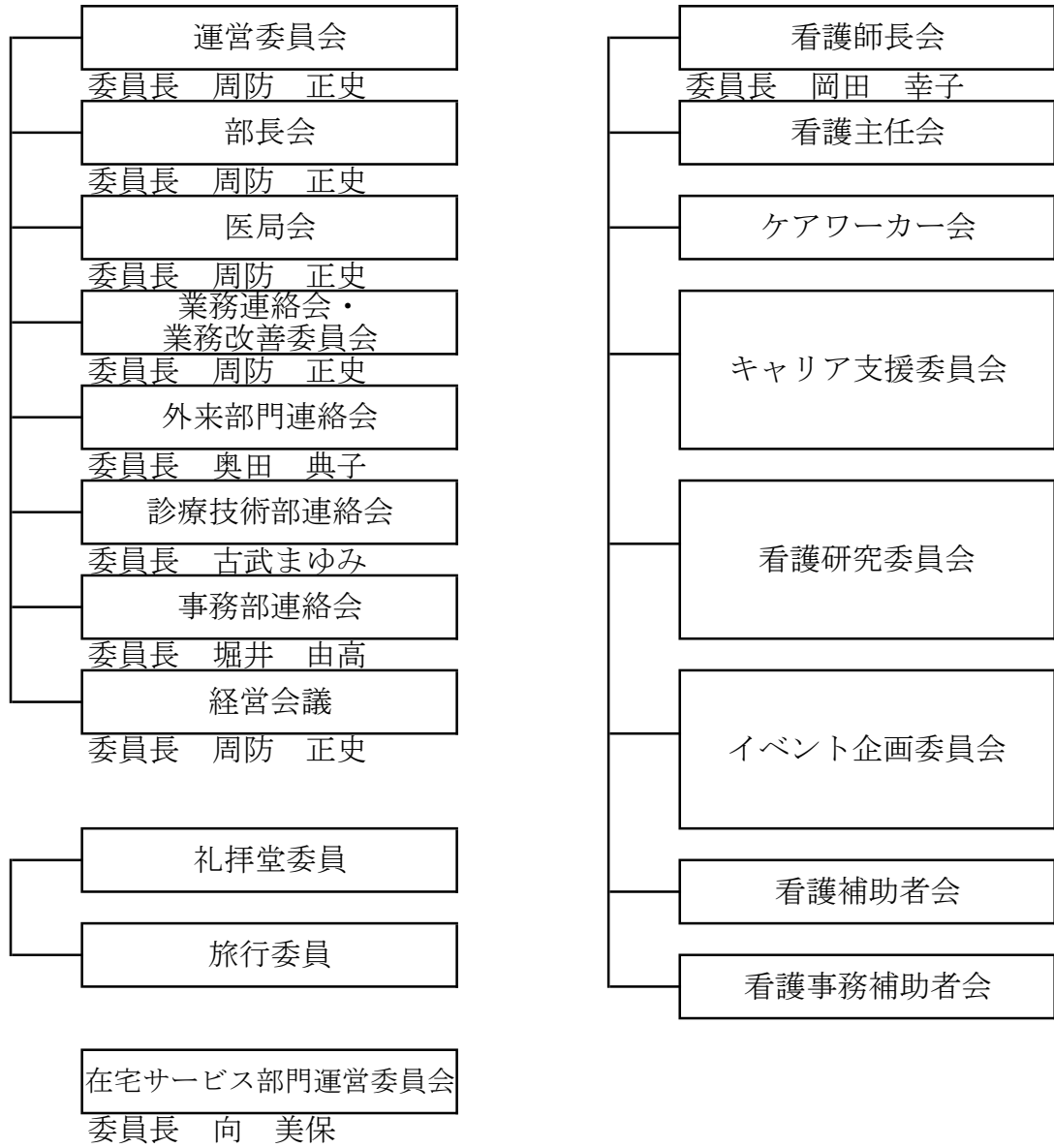


法令等に基づく委員会



公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

会議・連絡会・委員会組織図



2016 年度報告（平成 28 年度） 業務連絡・業務改善委員会

人員構成

委員長	周防 正史	副委員長	澤谷 久枝
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 在宅サービス部門長 事務部長 事務次長 看護部（5名）検査科（1名）放射線科（1名） 栄養科（1名）リハビリテーション科（1名）医事課（1名） 地域医療課（1名）在宅療養支援課（1名）診療情報管理室（1名） システム室（1名）礼拝堂（1名）経営企画室（1名）		
活動内容 （成果）	<p>業務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署、委員会からの連絡事項、新委員会（100年記念誌・認知症）などの周知と確認 ・行事、委員会等の調整及び具体的実施の確認 ・人事関係の報告 ・駐車場。県道向かい側土地購入後、アスファルト、フェンス整備完了 ・ホスピス 10 周年講演会実施（10 月 23 日 G-NET） ・リレーフォーライフ協賛の件 ・看護付き小規模多機能居宅介護事業の件 <p>業務改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設周囲の環境整備の実施の継続 ・病院入り口安全管理の徹底、外部からの入館制限、出入りを本館玄関に限定、各自動ドア入り口に暗証番号設置 ・レンタルユニフォーム開始（10 月～全職種） ・退院アンケート、“みなさまの声”に対する改善、回答の実行 ・監査委員会（年 2 回）の継続 ・医療懇談会の継続 9 月 ・看護システム変更。12 月 12 日～パスカリア→JBCC（電カル） ・パスワード更新年 2 回実施 ・イノシシ対策 ・厚生旅行、自己負担導入にて 3 年ぶりに実施 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・決定事項の周知と継続 ・改善へ向けた PDCA サイクルの徹底 ・退院アンケート内容の検討（患者満足度調査と改善） 医療の質向上、環境、設備、職員接遇の向上に繋げる。 ・継続的改善事項の評価。機能評価受審に向けてファイル化する。 ・美化活動の継続 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 給与・規約プロジェクト委員会

人員構成

委員長	澤谷 久枝	副委員長	
委員構成	事務長 事務部長 診療技術部長 看護部長 在宅サービス部門長 職員会：3 名（会長・副会長 2 名） 医師（1 名） 管理課（1 名） 看護師（1 名） 看護助手（1 名） ヘルパーステーション（1 名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・給与・規約プロジェクト委員会メンバー13 名で活動した。 内容は下記に示すとおり 1. 就業規則の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・育児介護休業法改正平成 29 年 1 月 1 日～ 全職員に通知 ・就業規則届け出 平成 29 年 3 月 24 日 2. 給与関係 <ul style="list-style-type: none"> ・夏期賞与（6 月 24 日）・冬期賞与（12 月 16 日）に付いての説明 ・昇給について、等級毎の昇給ピッチの変更を行った。要因は、『難易度』『優先度』のバイアスが働かなかつたため、全体が高得点となり、予算オーバーしたためと説明を加えた。今後は変更のある場合は早めに通達を行い、予算の適正化についても吟味していくこととした。 3. 福利厚生関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ユニフォーム貸与に対して、枚数の改善→レンタルにて 4 枚（増）平成 28 年 10 月から実施 ・3 年ぶりに厚生旅行実施。自己負担（日帰り 3,000 円 1 泊 5,000 円）健康保険証のない非常勤にも範囲拡大 9 月 26 日・10 月 11 日（日帰り）シルクデュソレイユ・トーテム 10 月 18.19、25.26 日 11 月 15.16 日（1 泊）京都国産牛食べ比べ湯ノ花温泉 ・保育所の利用料 … 半日料金の設定を実施 ・職員駐車場の拡大 … 県道側の 60 台確保 4. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の損益計算書の説明を継続。着目すべき点については理解が深められた。固定費特に人件費（残業代）の増が収益性を欠いていることも説明を加え、意識付けを行った。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生についての検討の継続（職員旅行含む） ・人事制度の完成度を上げる（新評価者への教育）。 ・昇給額予算の適正化 ・就業規則の見直し（ハラスメント内容の充実） 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 自衛消防隊

人員構成

委員長	周防 正史 (自衛消防隊隊長)	副委員長	堀井 由高 (防火管理者)
委員構成	地区隊長 (1 名) 防火管理者 (1 名) 副防火管理者 (1 名) 事務部 (3 名) 診療技術部 (1 名) 看護部 (6 名) 里統括防火管理者 (1 名)		
活動内容 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難・救出・消化器取扱い訓練 開催 本館 3 階・2 病棟 食堂付近より出火を想定 避難場所：本館 1 階 救急入口前。模擬患者を避難場所まで搬送 課題：①東館 3 階からの救出・搬送が難しい。 ②ハシゴやトンネルの設置も必要検討課題 ・初期消火競技会への参加 消火器操法・屋内消火栓操法部門のうち、前者は入賞を果たした。 ・自衛消防隊組織表・非常連絡網の見直しと作成 ・自衛消防隊の各班の役割の明確化と部署の明確化 ・各部署火元責任者の確認と一覧の見直しと作成 ・毎月 1 日を防火・防災デーと定めており、各部署の消防設備を点検し報告するシステムを継続実行 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対処法に対し不備・問題点を抽出し、現在の防災マニュアルの改訂および BCP マニュアルの策定が必要 ・避難用具、備品関係等の事前準備と定期点検。訓練を通して出てきた課題である避難器具新設の検討 ・夜間・休日の応援体制の周知 ・防災、各班（庶務・防災・救護）の役割の徹底と教育 ・平成 28 年 4 月 1 日 消防法令が改定に伴う、スプリンクラー・消火器具類・火災通報装置等について 抜本見直しがある為、法令に抵触しない様見直しが必要となる。膨大なコストを要する可能性もある。 		

2016 年度報告（平成 28 年度）		衛生委員会	
人員構成			
委員長	古武 まゆみ	副委員長	岡田 幸子
委員構成	衛生管理者（2 名） 健診室（1 名）	産業医（2 名） 職員会会長	看護部長 外来師長
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内巡視の実施を行い、職場衛生管理に努めた。 ・ 職員健診の実施（夜勤者、放射線に係わる職員は年 2 回実施） ・ 院内感染防止のため職員にインフルエンザ・HB ワクチン接種を実施 ・ メンタルヘルスチェックシステムによりメンタルヘルスチェックを実施した。当院の組織分析結果を所属長対象に報告会を実施した。 高ストレス者の面談を新規産業医が行った。 ・ 院内使用化学物質のリスクアセスメントを行い、マニュアルを作成しホルマリン・エチレンオキサイドガス使用を適正にした。エチレンオキサイドガス滅菌は外注、内視鏡室ホルマリンキット購入 ・ 院内感染防止対策委員会と共同して針刺し事故防止に取り組んだ。 ・ 院内入院・外来患者結核発症により、濃厚接触者検診を 3 回実施した。 対象職員・患者さんはすべてに結核感染は認められなかった。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内産業医が 2 名となった。 ・ 衛生委員会の取り組みである「職員健診、職業感染防止対策、精神的サポートが適切に行われている」これを継続していく。 ・ 非常勤医師の健診結果が把握されているか確認する。 ・ 職員の水痘・おたふくかぜ抗体を測定する。 ・ 職員健診後の再検査受診を促し、早期受診による医療費抑制を目的に再検査受診率を上げる。 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 栄養管理委員会			
人員構成			
委員長	徳岡 貴美	副委員長	久村 良美
委員構成	医師（1名） 管理栄養士（1名） 調理師（1名） 看護師（1名） 言語聴覚士（1名） 看護補助者（1名） 医事課（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事食について（評価・見直し） ・ 嚥下食について（評価・見直し） ・ 異物混入防止の対策強化(厨房内セロハンテープの使用禁止) ・ 病棟毎の食事に対する細やかな対応の実施 ・ 摂食機能に合わせた食事形態と内容の見直し 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ システムトラブルの解消 ・ 嚥下食の質の向上 ・ N S T 加算の継続 ・ 栄養指導件数増加への対策検討 ・ 特別食加算の増加への対策検討 ・ 検査時の延食の対応 		

2016 年度報告（平成 28 年度）		広報委員会	
人員構成			
委員長	櫻井卓哉（2017/1~安部 勉）	副委員長	
委員構成	経営企画室（1名） 事務次長（1名） 礼拝堂（1名） 看護助手（1名） 在宅部門（1名） リハビリテーション科（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの充実 毎月継続的な更新 ・ 毎月の病院広報誌“ヴォーリスだより”の継続発刊 原稿依頼・編集・校正・発刊 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ管理体制の確立 情報発信への仕組み作り 広報委員会と経営企画室の役割の明確化 ・ 広報誌の充実 ニーズに沿った情報の発信 ヴォーリスだより運用方法の検討（発刊方法等） ヴォーリスだよりの情報内容の検討 ホームページとヴォーリスだよりの役割の検討 紙面、紙質の見直し 		

2016 年度報告（平成 28 年度）		接遇委員会	
人員構成			
委員長	村松 淳子	副委員長	
委員構成	医師（1名） 看護師・MSW（1名） 医事課（1名） 薬局（1名） 老健センター（3名） 看護助手（1名） 居宅（1名） ケアハウス（1名） 10名		
活動内容 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の接遇に関する意識、質の向上に向けての取り組みを行う。 1、研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> * ヴォーリズの里全体の研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修実施日、3月21日・3月22日・3月22日 時間、17:30～19:00、2回、13:00～14:30の1回実施し、病院 在宅職員256名、老健職員41名の合計297名の参加があった。 2、里全体に向けて意識調査実施、結果配布 3、各職場での接遇の意識、質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ①毎月の“接遇標語”の設置、意識付けを行う。 委員会メンバーはその確認をしていく。 ②マニュアルの見直し、作成、配布 ③職員ポケットマニュアル検討、作成、配布 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇研修の組み立て <ul style="list-style-type: none"> テーマ・講師・時期の検討 ・ 接遇標語の実施内容の検討 ・ 勉強会の実施、意識向上を行えるようにしていく。 ・ 里全体のメンバーなので、里としての接遇の在り方の検討を行う。 ・ 職員の接遇への意識向上に向けての取り組み ・ 意識調査の継続、各職員に向けての意識付け 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 臨床検査適正化委員会

人員構成

委員長	鯨江 賢二	副委員長	
委員構成	医師（1名） 看護師（1名） 医事課（1名） 診療支援室（1名） 臨床検査技師（2名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精度管理 <ul style="list-style-type: none"> 外部精度管理：平成 28 年度日本医師会精度管理事業の結果報告 315 満点中、309 点評価 滋賀県医師会・滋賀県臨床検査技師会精度管理事業の結果は、 生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門・血液部門すべて A 評価 内部精度管理：検査センターメディックから問題なしの評価 ・ その他連絡事項と業務改善について <ul style="list-style-type: none"> ★検査機器の更新の件について、新しい生化学自動分析測定器で測定しています。成績書も生化学検査報告書は手書きから印字した報告書になりました。遠心分離機については昨年に 1 台補充しました。それと予定では今年の 6 月か 7 月に新しい血球計数装置に交換します。それによりオンラインでデータを取込んで院内検査報告書に印字ができます。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内検査依頼について 院内緊急セットと院内検尿セットとガス分析を同時依頼されることがあり、依頼は一つずつ分けて頂きたい。 院内緊急セットで セット を選択し 依頼 をクリック。そして院内検尿セットで セット を選択し 依頼 をクリック。続けてガス分析は院内緊急（単項目） セット を その他 にして、ガス分析にチェックをして 依頼 をクリックをお願いします。依頼書は 3 枚になります。院内緊急セットと院内検尿セットの場合、依頼書は 2 枚になります。 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 医療安全管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	小西 智子
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 ME サービス担当（1 名） リスクマネジメント部会長（1 名） 医療安全推進者（2 名）		
活動内容 （成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月 1 回の委員会活動 インシデント報告分析検討、インシデントの中でも重大であると思われるものは部会長が管理委員会に報告 部会長から報告を受けたインシデントの分析検討・改善策の提案 2. 年間教育計画に沿っての研修の企画・実行 3. 医療安全情報の院内配信 4. 一般病棟のアクシデントカンファレンスへの参加、事後対応のフィードバック 5. 看護部以外の部署でのインシデント、アクシデントレポート提出の励行。リスクマネジメント部会参加奨励 6. アクシデントレポートの分析、改善策の検討、各部署へのサポート 7. 臨時医療安全委員会の招集 年 14 回招集。レベル 3b 以上全招集でき対策を立てた。 8. 委員会規定・医療安全管理指針のマニュアル見直し 9. 医療安全に関する職員教育。研修会開催 新採用対象・全職員対象 2 回開催 10 全職員参加での研修で R C A 分析施行 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育 ・ 危険予知トレーニング（K Y T）を重ね、根本原因分析（R C A）を訓練する。 ・ 職員の意識向上に向けた研修、教育の実施 ・ 医療安全管理マニュアルの見直し継続 ・ 暴力対策マニュアルの見直し、フロー作成 ・ 医療事故発生時のフロー作成 		

2016 年度報告（平成 28 年度） リスクマネジメント委員会

人員構成

委員長	加藤 和幸	副委員長	
委員構成	医局（2名） 薬局（1名） 栄養、給食科（1名） 看護師（5名） 放射線科（1名） 医事課（1名） 地域医療課（1名） リハビリテーション科（1名） 管理課（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のインシデント報告と集計 H28 年度のインシデント集計、報告会開催（4 回） ・ 重要事例の検討と対策 ・ 医療安全委員会との連携 ・ リスクマネジメント研修会の開催 ・ セーフマスター導入後の運用継続 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ インシデントレポートの提出の周知 レポートに関しては、セーフマスター導入後もリスクマネージャーが働きかけ、インシデントレポート提出を意識づけている。件数に関しては、温度差はあり引き続き働きかけを継続する。 ・ リスクマネージャーに対する教育 カンファレンスの持ち方、内容、分析の仕方、職員に対する指導などレベルアップが必要なため R C A 分析方法の導入、研修会の開催にて周知を行う。 		

2016 年度報告（平成 28 年度）		教育委員会	
人員構成			
委員長	小松 知史	副委員長	藤居 勉
委員構成	看護部（1名） 診療技術部（1名） 事務部（2名） 在宅部門（1名）		
活動内容 （成果）	<p>1, 『院内ウォーク』（他部署体験）</p> <p>《参加対象者》 平成 27 年度の新入職者、途中採用者</p> <p>《実施日》 9 月 8 日・9 日・15 日・16 日</p> <p>《内容》</p> <p>5～6 人程度のグループで病院、在宅部門の全部署を回る。各部署の業務内容を聞き、自分の業務との関わりを理解する。各自で得た気付きをレポートにまとめてもらう。</p> <p>2, インスタントシニア体験</p> <p>《参加対象者》 各部より 5 名程度の参加者を募り、計 20 名で実施</p> <p>《実施日》 1 月 24 日</p> <p>《内容》</p> <p>滋賀県社会福祉協議会 平芳典様を外部講師として迎え、年齢を重ねることによる五感の低下を様々な用具を用い、体験する。</p> <p>3, 院外研修報告書の整理（OFF-JT）</p> <p>《内容》</p> <p>院外で受けた研修報告書をいつでも全職員が閲覧できるように、Share 上のデータを整理する。</p>		
課 題	<p>《他部署体験》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署の説明時間を均一にすると、時間を持て余す部署もあり、より細かな時間調整が必要 <p>《インスタントシニア体験》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常にいい体験となっているので、今後未体験者を中心に来年度も継続していく。 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 全人的ケア推進委員会			
人員構成			
委員長	曾我 菜穂子	副委員長	細井 順
委員構成	医師（2名） 看護師（2名） 管理栄養士（1名） 薬剤師（1名） チャプレン（1名）		
活動内容 （成果）	<p>【定例委員会】 第3火曜日 14:00～14:30 （1回/月開催）</p> <p>【事例検討会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年4回実施、8部署の事例検討を行った。開催日は6.8.11.2月の委員会開催日の17:30～18:30とした。 ・直前の委員会では予め事例を読んで検討会に臨むようにした。 ・例年事例を読むのに時間を要し検討時間がおしてしまうことから、今年度からは司会と発表者が相談してあらかじめ論点を明らかにして臨むようにした。 ・1か月前には事例紹介と論点を記載した案内をポスター掲示し、当日昼には院内放送での参加を呼びかけるアナウンスも試みたが、参加人数に大きな増加はなく、例年通りほぼ委員会メンバーと発表部署だけであった。 <p>【がんセミナー】 テーマ「がんと向き合うところ」</p> <p>第1回 1/28(土)「抗がん剤の上手な使い方と限界」 三菱京都病院 緩和ケア内科 部長 吉岡 亮先生</p> <p>第2回 2/18(土)「地域に、あなたに寄り添う薬局を目指して」 東近江市 丸山薬局 薬剤師 大石 和美先生</p> <p>第3回 3/18(土)「悩みって深いですね、わかりますよ」 大津市民病院 臨床心理士 笹田 侑子先生</p> <p>毎年参加者にセミナーで取り上げて欲しい内容をアンケート調査すると、「最新のがん治療」が常に上位に来ることもあり、今年度特に第1回の参加人数が多く、興味深い内容であることがうかがえた。 3回とも好評であったが、配布資料がない先生の時もあり、参加者からは「できたら毎回資料を欲しい」と希望された。</p>		

	<p>追記：第1回目のセミナーに「滋賀報知新聞社」の記者がある参加者の方と一緒に事前連絡なく来られ、講師の先生や参加者の許可なくセミナーの様子を写真に撮り、新聞に載せられたということがあった。</p> <p>チャプレンを通じて講師の先生には謝罪をし、新聞社の方には申し入れをおこなった。一緒に来られた参加者の方と記者が知り合いであったようだが、参加者のプライバシーにも関わることなので今後再発のないようにしていく。</p> <p>【追悼会】 春 5/21 : 11組 14名 秋 10/15 : 4組 6名 過去最少人数だった。 他部署からの協力も得られ、運営はスムーズだったが、年々参加者が減っており、開催時期や対象者の見直し(在宅を含めるなど)も必要か。</p> <p>【ホスピス開設 10 周年記念講演会】 10/23 (日) 多数の参加があり、盛況に終わった。</p>
<p>課 題</p>	<p>【事例検討会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署に委員がいないため、引き続き管理職が意識を高めてスタッフが意識付けできるような案内、声掛けが必要である。 ・病院全体の勉強会が多いため、教育委員とコラボした勉強会など、工夫が必要である。 ・時間外になるが、開催時間の検討が必要か？ <p>【がんセミナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月は左義長祭りの日を外し、スムーズな運営であった。 ・参加者の聞きたい内容、興味深い内容に特化したこともあり、参加者は例年より多かったので、今後もニーズに沿ったものにしていく。 <p>【追悼会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々参加者が減少している。病院としての追悼会の目的・意義を周知していく必要がある。 ・病院で亡くなられた方以外に訪問看護を利用して在宅で亡くなられた方も対象とするのはどうか？今後在宅部門とも検討していく。 <p>【全体を通して】</p> <p>委員が少人数になり、委員会の運営がぎりぎりの状況であった。追悼会の運営は病院の行事としてとらえていただき、今後も引き続き委員会だけでなく各部署にご協力をいただきたい。</p>

2016 年度報告（平成 28 年度）

褥瘡対策委員会

人員構成

委員長	北野 晴久	副委員長	
委員構成	医師（1名） 看護師（4名） 管理栄養士（1名） 薬剤師（1名） 理学療法士（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回の定例委員会 ・ 委員会メンバーでのグループ回診を月 2 回実施 ・ 褥瘡診療計画書を集計して医事課に提供 ・ 褥瘡に対する予防・治療の最先端の知識の周知 		
課 題	<p>当院では、入院患者に高齢者が多く、褥瘡が発生しやすい環境である。2016 年行われたセミナー（日本褥瘡学会教育セミナー(4 月)・「褥瘡の治療における 創と外用薬のベストマッチング」(6 月)) や学会総会(9 月)で得られた最新の情報とガイドラインをもとに、当院採用薬の見直しを行い、院内の勉強会を開催して、褥瘡に対する正しい知識と、正しい体位やトランスファーの周知をすすめた。</p> <p>その結果、2014 年では、褥瘡の治癒率が 36%であったが、2016 年度後半では 54%に改善した。それにより、褥瘡の患者さまの紹介数が増加、特に重症例の紹介が著増し、褥瘡患者数は、2014 年に比べて、1.8 倍となった。</p> <p>さらに、褥瘡の治癒までに要する日数は、全国平均より短くなり、当院の褥瘡に対する治療の質が向上し、安定してきたことを示しているが、全国で最先端に行く施設、例えば、小林記念病院のようなところには、まだまだ及ばない状況である。</p> <p>2017 年は、医療スタッフのさらなるレベルアップを図り、全国トップレベルの医療が提供できるよう、努力していく。</p>		

2016 年度報告（平成 28 年度）		ボランティア委員会	
人員構成			
委員長	増田 繁美	副委員長	堂川 富美江
委員構成	看護師（1名） 看護助手（1名） 在宅部（1名） 薬剤師（1名） 医事課（1名） 管理課（2名） 老健センター（2名） 委員長・副委員長を含め、9名体制		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 41 期、第 42 期ボランティア募集（新規 2 名の応募） 募集への作業確認と役割分担 オリエンテーションの実施 ・ 6 月 18 日（土）ボランティアの集い 開催 ボランティア 18 名、職員 9 名参加 今回は新規ボランティアオリエンテーションと集いを同日開催 ・ 11 月 25 日（金）クリスマスリース作り ・ 12 月 10 日（土）クリスマス会 患者誘導・移動のお手伝い ・ ボランティアの健康管理と活動支援 健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施 ボランティア間、病院、老健との交流会 活動内容、活動時間などの管理 ・ 活動の支援と協力体制 日本病院ボランティア総会等での参加時の予算組み 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの募集 秋期募集時、申込なし。 徐々に高齢化と活動人員の減少がすすんでいる。 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 院内感染防止対策委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	奥野 貴史
委員構成	院内感染防止対策委員：院長 感染管理者（医師） 看護部長 事務長 薬局長 検査技師長 事務部長 院内感染防止対策チーム：病棟（1名） 外来看護師 リハビリ科 栄養科 放射線科 地域医療課 医事課 管理課 薬局 代表各 1 名		
活動内容（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近江八幡市立総合医療センターと院内感染防止合同カンファレンスに 4 回参加した。月次アルコール手指消毒剤使用状況報告 ・ ICT チームの院内ラウンドを継続し、指摘事項の改善を求めた。 ・ 全部署に「感染症レポート」及び滋賀県感染症情報センター週報を毎週院内に配信、感染症に関する情報を提供し職員の啓蒙を行った。 ・ 毎月定例委員会では臨床検査科より「感染レポート」報告により耐性菌発生状況の報告。JANIS 報告。薬局から院内抗生物質使用量の報告 看護部より月次病棟別アルコール手指消毒薬の消費数の報告 ・ 来院者、家族向けに流行している感染症注意喚起ポスターを掲示した。 ・ 院内感染防止研修会として、「標準予防策 手洗い 30 秒」、「ノンゲージを用いたノロ感染症感染防止対策」「手洗いのタイミング」研修会を全職員向けに実施した。 ・ 入院・外来患者に結核発症が 3 回発生し、接触者検診を行った。 ・ 吸引びんのディスポ化を導入した。 ・ 院内感染防止のために、オムツ交換手順を整え周知した。 ・ 1 体型 CV ルートに院内使用を統一した。 ・ 抗インフルエンザ薬の予防投薬マニュアルを作成した。 ・ H28 年度院内感染対策講習会（奈良）、その他の院内感染防止対策研修会に参加した。 ・ 「病院感染防止対策マニュアル」の改訂を実施した。 ・ 「新型インフルエンザ等発生時の診療継続計画」を改訂した。 ・ H29 年 4 月入社職員より、水痘・おたふくかぜ抗体を入社健診項目に追加した。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペーパータオルフォルダーをすべての手洗い場に設置する。 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 診療情報管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	加賀爪 優子
委員構成	医 局（1 名） 事務部（1 名） 看護部（1 名） 診療情報管理士（1 名） 診療技術部（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	<p>・ 診療記録監査について</p> <p>7 月同僚評価監査をおこなう。監査は 100 点からの減点制で評価を行った。講評を行い、点数の低い医師に個別で指導を行った。</p> <p>（結果）</p> <p>診療記録内容不備や 1 号用紙の記入漏れが少なくなった。</p> <p>また、医師からの提案で様式やテンプレートの追加、訂正が行われ、充実した診療記録などがなされるようになった。</p> <p>・ 電子カルテについて</p> <p>【体温表】の表示内容などが削除されるという件数が今年度、多くの問い合わせがあった。</p> <p>（結果）</p> <p>口頭説明では継続的な理解が滞ってしまうと考え、各病棟へ説明書の作成を行い周知もお願いした。現在は全く問い合わせが来なくなった。</p> <p>・ DPC データ提出加算について</p> <p>平成 29 年 1 月退院患者から【 Hファイル 】の作成を行い提出するようになった。それに向けて電子カルテから、看護必要度・医療 ADL 区分が行われるようになりシステムが変更となった。</p> <p>（結果）</p> <p>データ提出するにあたり、電子カルテからのデータであるので取り込みやすくなったのでは…と考える。ただ、再確認は 6 月になるので前のシステムとの兼ね合いを考えることになるであろう。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・システム障害時対応マニュアル作成について 電子カルテ運用当時に丁寧に細かく作成はされているが、なかなか容易に把握されないでいるのが現状である。今年度「レベル4」のシステム障害があったが、マニュアルの活用がされなかった。見直しの時期と判断し周知の徹底を含めて作成を行う事を決定した。 <p>(結果)</p> <p>システム室への作成依頼を行い、初版を活かしながら簡潔な内容となった。各部署に配布を行う。その後、「レベル2」の障害が発生したが、マニュアル通りに行われた。</p>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・院内カルテ監査 2017年度は外部監査委員によるカルテ監査を行い指導を受けたいと考えています。 ・電子カルテ 再更新の時期であるので、今までの課題を念頭に入れて院内での電子カルテ操作等の負担が軽減になるように努めていきたいと考えています。 ・DPC（データ提出加算） 病院内連携を図っていきたい。

2016 年度報告（平成 28 年度） 病院機能評価委員会

人員構成

委員長	堀井 由高	副委員長	河瀬 ゆかり
委員構成	理事長 事務部（1名）	事務長 事務部長 看護部（2名）	看護部長 診療技術部長 診療技術部（1名）
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度初めに、規程および目標・活動方針の見直し ・ 9月16日、滋賀県病院協会主催研修受講 ・ 各部門のインジケーターの継続的取組み ・ 2月～3月にかけて、3回に亘り 禁煙・受動喫煙研修実施（講師：堀井） ・ 3月19日、機能評価受審支援セミナー参加 （於：岡山市、堀井・酒井受講） ・ 3月、平成28年度分の各評価項目の自己評価実施 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当院は、次回 平成30年秋に受審。平成30年より運用開始の、新バージョン・3rd G : V o r . 2 . 0 の情報収集。研修・セミナーに積極参加 ・ 文書管理一元化、リスクに対応する事業継続計画等、検討に時間を要する項目の本格準備 ・ 推進リーダーの育成と委員会メンバーのマネジメント能力向上 ・ 禁煙教育の継続的取組み（アンケート、外部講師研修実施） 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 個人情報保護対策委員会			
人員構成			
委員長	川嶋 勇次	副委員長	河瀬 ゆかり
委員構成	事務長 看護部長 事務次長 在宅部（1 名） 放射線科（1 名） 医事課（1 名） 地域連携課（1 名） 診療情報管理室（1 名）		
活動内容 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護に関する研修会 「ネット社会の脅威 あなたの会社の対策は？」 DVD 鑑賞 平成 28 年 10 月 7 日～14 日 実施 欠席の場合は、DVD を渡し自宅での視聴を行い配布されたアンケートを提出してもらう。 ・ 本会の規定の見直しを行った。 ・ マイナンバーに関する個人情報保護規定及び公益通報者保護規定について、当院と契約を行っている税理士事務所と個人情報の取り扱いについて規定の作成を求めた。 ・ 各部署における個人情報保護規程およびマニュアル見直し 所定の様式で作成依頼をかけ、統一感を図った。 ・ 職員の個人情報を保護について周知を行った。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ I T 情報管理委員会と個人情報保護対策委員会との連携の構築継続 ・ 個人情報保護に関する継続した教育と周知 		

2016 年度報告（平成 28 年度） クリニカルパス委員会

人員構成

委員長	新庄 安宏	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（1 名） 薬剤師（1 名）		
活動内容 （成果）	10 月 ジオンパスは 2 泊 3 日から 1 泊 2 日へ変更し運用中		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度以前に化学療法のクリニカルパスを作成したが、昨年度に続き本年度も使用実績がなく（対象患者がなく）利用が進まなかった。化学療法に関する新規パスはなし。 ・ 患者層の変化により、ひとつのパスを適用してスムーズに運用できるケースが減少してきたと考察する。今後は画一的パスではなく、柔軟な対応を可能とする仕組みを模索する必要がある。 		

2016 年度報告（平成 28 年度） ワークライフバランス委員会

人員構成

委員長	櫻井 卓哉	副委員長	田中 潤
委員構成	医師（1名） 看護師（5名） 事務職（2名） 調理師（1名） 理学療法士（1名）		
活動内容 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員対象にWLBワークショップインデックス調査項目を参考にアンケートを実施（8月） <li style="padding-left: 20px;">→インデックス調査の分析、今後の取り組み計画の立案 <li style="padding-left: 40px;">各部署の分析結果を基にディスカッションを実施 様々な意見が出たが、今回は有給休暇の取得方法・消化状況と残業時間に着目した。本来ならば有給休暇取得に関して、全部署共通の認識がないといけませんが、実際には各部署により、かなりの差異が生じている。また、残業時間も部門・部署によって差があり、バランスの是正が必要と考える。 ・管理課から昨年の残業取得を部門別に出してもらい、課題の大きい部門を抽出 ・ワークライフバランス新聞発行 ・委員会毎月1回定例化した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・残業時間や有休取得について。他部門との差があることに関しては、各部署独自の風土、または上司と部下の考え方の違いなどがある。これを是正するには相互の教育、啓蒙が肝要であると考えます。 ・残業時間については、減らすための取り組みを考え実行してもらう必要がある。 ・有休取得に関しては、次年度への持ち越し課題として取り組んでいく。 		

2016 年度報告（平成 28 年度） IT 情報管理委員会			
人員構成			
委員長	林 徹夫	副委員長	
委員構成	システム室（1名） 医師（1名） 看護部（1名） 経営企画室（1名） 管理課（1名） 放射線科（1名） 薬局（1名） 医事課（2名） 栄養科（1名） リハビリテーション科（1名） 診療情報管理室（1名） 診療支援室（1名） 外部（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報セキュリティの向上策について検討を実施 ・ 毎月のシステム室対応状況報告 ・ システムトラブルに対する報告（原因、対策、再発防止策） 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテシステムの次期更新に向けての課題を明確にし、次期更新の方針、重点項目、スケジュールを明確化する。 ・ 職員の情報セキュリティに対する意識向上（教育） 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 認知症ケア推進委員会			
人員構成			
委員長	神 千草子	副委員長	岡田 幸子
委員構成	院長 看護部長 医師（1名） 看護部（7名） 診療技術部（3名） 事務部（2名） 経営企画室（1名）		
活動内容 （成果）	平成 28 年 7 月より発足（7 回／年間 委員会開催） 1. 院内認知症対応ケアマニュアル作成し、各部署へ配布と活用 2. 院内職員対象研修の企画、下記実施 10 月 31 日「認知症について」 12 月 13 日「認知症の“ひとの気持ち”」		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・継続教育のための研修企画、運営（参加率のアップを図る） ・院内マニュアルの周知、活用と見直し 		

2016 年度報告（平成 28 年度）		図書委員会	
人員構成			
委員長	安部 勉	副委員長	
委員構成	礼拝堂（1名） 介護福祉士（1名） 事務部門（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室の図書の整理、区分 ・ 情報誌の管理 ・ 図書室としての利用促進 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の整理・区分 ・ 図書室利用についての方策 ・ 図書室の図書紹介、読書啓発 		

2016 年度報告（平成 28 年度） 100 周年記念誌委員会			
人員構成			
委員長	安部 勉	副委員長	藪 秀美（本部事務局長）
委員構成	○編纂チーム 事務長 礼拝堂（1名） 芹野（財団本部） 経営企画室（1名） ヤマプラ（3名） ○作業チーム 医局（2名） 在宅部門（1名） 診療技術部（1名） 管理課（1名） 看護部（1名） 経営企画室（1名）		
活動内容 （成果）	○編纂チーム 100 周年記念誌発行に向けての企画、構成、編集作業 全体構成についての審議、資料発掘、精査 ○作業チーム 病院機関紙、その他、現存する写真などの資料の整理と年表作成 2017 年度へと継続事業 ・記念誌内容について業者（ヤマプラ）と毎月委員会を開催し、進捗状況の確認、内容の精査、資料の扱いについて検討 ・病院全体の事業として病院全体への周知、協力依頼など		
課 題	・資料の発掘、および取捨選択（作業チーム） ・全体経費の見直し、および内容の精査 ・タイムスケジュールにあった作業進捗状況の確認		



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院 年報

平成28年度

発行 平成29年9月
発行者 公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
管理者 三ッ浪 健一
院長 周防 正史

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町 492

TEL (0748) 32-5211(代)

FAX (0748) 32-2152

URL <http://www.vories.or.jp>